

史跡 齋宮跡

平成22年度発掘調査概報

史跡 齋宮跡
平成22年度発掘調査概報

二〇一二年三月

齋宮歴史博物館

2012年3月

齋宮歴史博物館



第 171 次調査出土 平仮名「いろは歌」墨書土器（内面）



第 171 次調査出土 平仮名「いろは歌」墨書土器（外面）

序

三重県および齋宮歴史博物館では、現在史跡齋宮跡東部地域において平成26年度の完成を目指し、歴史公園整備事業を進めています。平成23年度には、現地での造成工事も始まり、シンポジウムや勉強会が開催されるなど、周辺地域でも整備に向けた体制づくりが進められています。

今回報告する発掘調査は、歴史公園整備に先立ち、柳原地区周辺で行われたものです。第167・168次調査では柳原区画北東部および東西区画道路側溝を明らかにしました。第171次調査では、内院推定地である牛薬東区画から、ひらがなで書かれた「いろは歌」墨書土器が出土し、齋宮にいち早く都の文化が持ち込まれていた様子が明らかとなりました。こうした成果は、地元明和町をはじめ、県民や齋宮跡を訪れる皆様に還元し、積極的に情報発信していきたいと考えております。

史跡齋宮跡の保存および調査研究・整備活用にあたり、貴重なご意見やご指導を頂きました文化庁、齋宮跡調査研究指導委員他多くの方々、並びに発掘調査にあたり、様々なご配慮・ご協力を頂きました国史跡齋宮跡協議会をはじめ地元の皆様に厚く御礼申し上げます。

最後とはなりましたが、2011年7月11日に、齋宮跡調査研究指導委員の町田章先生がご逝去されました。町田先生は、都城制をはじめとして日本の考古学界に大きな足跡を残すとともに、齋宮跡の解明についてもご尽力されました。ここに、これまでの感謝とともに、謹んで哀悼の意を表します。

2012(平成24)年3月

齋宮歴史博物館

館長 小田 秀雄

例 言

- 1 本書は、斎宮歴史博物館が平成22年度に国庫補助金を受けて実施した史跡斎宮跡発掘調査（第167・168・169・171次調査）の概要をまとめたものである。
- 2 明和町が、国庫補助金の交付を受け、調査主体となって実施した史跡現状変更等に伴う緊急発掘調査の第170次調査報告書は、別途明和町が刊行している。
- 3 遺構の実測にあたっては、日本測地系による国土調査法（旧国土座標）の第Ⅵ座標系を基準とし、方位は旧国土座標による座標北で示している。また、建物の軸方位については、全て北を規準として表記している。
- 4 遺構時期区分の指標となる土器の分類と時期認定については、「斎宮跡の土器」（『斎宮跡発掘調査報告Ⅰ』斎宮歴史博物館、2001年）による。
- 5 遺構表示記号は次のとおりである。
SB：掘立柱建物 SD：溝 SF：道路 SK：土坑 Pit：柱穴、ピット
- 6 遺物実測図は基本的に実物の4分の1で行っているが、一部の遺物は原寸大で掲載している。遺物写真は縮尺不同である。
- 7 土層および出土遺物の色調は、日本色研事業株式会社発行『新版標準土色帖』（2004年度版）に拠る。施軸陶器の色調については一部、大日本インキ化学工業株式会社発行『日本の伝統色』第5版（1989年）を用いて補っている。
- 8 遺物の漢字表現については、材質の差による漢字の偏に必ずしも従うことなく、「わん」は「椀」、「つき」は「杯」を用いている。ただし、参考文献などからの引用の場合にはこの限りではない。
- 9 本書の執筆は、新名強があたり、編集は調査研究課で行った。また、発掘調査および資料整理については、倉田直純・大川勝宏・角正芳浩・杉原泰子・八木光代・水木夏美・大橋由紀・山本達也が補佐した。
- 10 本概報を作成するにあたって、下記の方々のご教示を得た。謹んで御礼申し上げます。（50音順・敬称略）

所 京子（岐阜聖徳学園大学名誉教授）

藤本孝一（龍谷大学客員教授）

目次

I	前言	1
II	第167次調査	7
III	第168次調査	29
IV	第169次調査	47
V	第171次調査	51

挿図目次

第I-1図	史跡齋宮跡位置図	3
第I-2図	平成22年度発掘調査区位置図	4
第I-3図	齋宮跡方格地割区画名称図	5
第I-4図	史跡齋宮跡における大地区表示図	6
第II-1図	第167次調査 グリッド図	7
第II-2図	第167・168・169・171次調査区位置図	8
第II-3図	第167次調査 遺構平面図	9
第II-4図	第167次調査 土層断面図	10
第II-5図	第167次調査 S B 10164～10171平面図	14
第II-6図	第167次調査 S B 10154土器出土状況図	14
第II-7図	第167次調査 S B 10152土器出土状況図	14
第II-8図	第167次調査 出土遺物実測図①	18
第II-9図	第167次調査 出土遺物実測図②	19
第III-1図	第168次調査 グリッド図	29
第III-2図	第168次調査 遺構平面図・土層断面図	30
第III-3図	第168次調査 S K 10248土器出土状況図	31
第III-4図	第168次調査 S K 10247土器出土状況図	31
第III-5図	第168次調査 出土遺物実測図①	33
第III-6図	第168次調査 出土遺物実測図②	34
第III-7図	第168次調査 出土遺物実測図③	35
第III-8図	第168次調査 出土遺物実測図④	36
第IV-1図	第169次調査 グリッド図	48
第IV-2図	第169次調査 遺構平面図	48
第IV-3図	第169次調査 土層断面図	48
第IV-4図	第169次調査 出土遺物実測図	48
第V-1図	第171次調査 遺構平面図・土層断面図	51
第V-2図	第171次調査 出土遺物実測図①	53
第V-3図	第171次調査 出土遺物実測図②	54
第V-4図	第171次調査 平仮名「いろは歌」墨書土器赤外線写真・実測図	59

写真図版目次

巻頭	第171次調査出土 平仮名「いろは歌」墨書土器(内面) / 同(外面)	
Ⅱ-1	第167次調査遺構(1) 調査区全景(北から) / 調査区全景(南西から)	23
Ⅱ-2	第167次調査遺構(2) S B 10154 (西から) / S B 10154柱穴土器出土状況(東から)	24
Ⅱ-3	第167次調査遺構(3) S B 10165 (西から) / S B 10159・10160 (西から)	25
Ⅱ-4	第167次調査遺構(4) S B 10152柱穴土器出土状況(東から) / S E 10210 (南から)	26
Ⅱ-5	第167次調査遺物(1)	27
Ⅱ-6	第167次調査遺物(2)	28
Ⅲ-1	第168次調査遺構(1) 調査区全景(北から) / S B 10241 ~ 10245 (西から)	40
Ⅲ-2	第168次調査遺構(2) S K 10248土器出土状況(北から) / 同完掘状況(東から)	41
Ⅲ-3	第168次調査遺構(3) S K 10247土器出土状況(西から) / 同完掘状況(南から)	42
Ⅲ-3	第168次調査遺構(4) S K 10249 ~ 10252 (南から) / S D 10254・10255 (西から)	43
Ⅲ-5	第168次調査遺物(1)	44
Ⅲ-6	第168次調査遺物(2)	45
Ⅲ-7	第168次調査遺物(3)	46
Ⅳ-1	第169次調査遺構(1) 調査区全景(北から) / 調査区全景(南から)	49
Ⅳ-2	第169次調査遺構(2) 遺物 調査区北半部(西から) / 出土遺物	50
V-1	第171次調査遺構(1) 調査区全景(南から) / 調査区全景(西から)	60
V-2	第171次調査遺構(2) S D 10117 ~ 10119 (東から) / 同土層断面(東から)	61
V-3	第171次調査遺物(1)	62
V-4	第171次調査遺物(2)	63
V-5	第171次調査遺物(3)	64

表目次

第Ⅰ-1表	平成22年度 発掘調査一覧表	2
第Ⅱ-1表	第167次調査 掘立柱建物一覧表	12
第Ⅱ-2表	第167次調査 遺構一覧表	13
第Ⅱ-3表	第167次調査 遺物観察表(1)	20
第Ⅱ-4表	第167次調査 遺物観察表(2)	21
第Ⅲ-1表	第168次調査 掘立柱建物一覧表	32
第Ⅲ-2表	第168次調査 遺構一覧表	32
第Ⅲ-3表	第168次調査 遺物観察表(1)	38
第Ⅲ-4表	第168次調査 遺物観察表(2)	39
第Ⅳ-1表	第169次調査 遺物観察表	47
第Ⅴ-1表	第171次調査 掘立柱建物一覧表	52
第Ⅴ-2表	第171次調査 遺構一覧表	52
第Ⅴ-3表	第171次調査 遺物観察表(1)	55
第Ⅴ-4表	第171次調査 遺物観察表(2)	56
第Ⅴ-5表	第171次調査 遺物観察表(3)	57

I 前 言

1 調査の経緯と概要

史跡斎宮跡は、後に斎宮歴史博物館が建設された古里地区での宅地開発計画に伴い昭和45年に発掘調査が始まり、文化庁の補助事業として昭和48年から開始した範囲確認調査を経て、昭和54年3月27日に国史跡に指定された。県は史跡指定に伴い斎宮跡調査事務所を設置して発掘調査に当たり、平成元年度からは10月に開館した斎宮歴史博物館が史跡解明のための計画調査を継続して実施している。

斎宮跡の発掘調査では、史跡西部に所在すると想定されてきた飛鳥・奈良時代の初期斎宮跡を解明することが課題であるほか、史跡東部に存在した平安時代の斎宮跡中核部の解明も重要な課題である。

近年、地元からも史跡東部の整備を望む声が高まってきたことから、平成18年度に史跡整備の在り方検討会を開催し、柳原区画を中心とした史跡東部における整備の方向が示された。そして、平成22年3月に「史跡斎宮跡東部整備基本計画書」が策定され、平成26年度(一部は平成27年度)の完成を目指し、平成23年度からは現地での造成工事に着手している。

発掘調査

上記の課題を受け、平成19年度から柳原区画および周辺地域の実態解明を重点的に進めることとなった。平成22年度は、柳原区画で約537㎡、隣接する下園東区画で239㎡、御館区画で71㎡、牛業東区画で37㎡の調査を実施した。

柳原区画では、これまでに第8-10・10・20・28・143・152・153・157・159・165-1・165-2次調査が実施され(第1-4図参照)、古代伊勢道(奈良古道)や区画道路のほか、区画の中央部から南部にかけて庇をもつ大型の掘立柱建物複数棟確認されている。特に中央部で確認された四面庇建物は、ほぼ同一場所で5回建替えられたことが判明しており、平安時代前葉には、三面庇建物や東面庇建物を伴う儀礼的空間が形成されていたと考えられる。

今回は、柳原区画北東部の遺構状況を確認するため、第167次調査を行った。また、柳原区画の北側

に隣接する下園東地区では、区画道路の北側溝および区画南部の遺構状況を確認するために第168次調査を、柳原区画の西側に隣接する御館区画では東西方向の区画道の状況を確認するため第169次調査を行った。また、牛業東区画では、昨年度に引き続き平安時代後期の区画溝および遺構状況を確認するために第171次調査を実施した。

整備

史跡東部の整備に向けて「斎宮跡調査研究指導委員会」の課題別部会として設置した学識経験者・地元住民等8名の委員から成る「斎宮跡整備・活用検討会」において、柳原区画の調査と併行して、整備・活用に関する骨子案を検討し、総括を行った。

発掘調査現場の公開・活用

近年斎宮歴史博物館では、史跡への来訪者増加や魅力の向上を目標として、発掘調査現場の積極的な利活用を行っている。具体的には、発掘調査見学者への随時公開・説明、ホームページを通じた情報発信を行うとともに、現地説明会や夏休み子ども体験発掘教室、学校団体等の体験発掘、大人向けの発掘体験ワークショップなどを開催している。

2 調査体制

史跡斎宮跡の調査・整備に関する業務は、斎宮歴史博物館調査研究課が担当した。当報告に関わる組織は以下の体制で行った。

平成22年度

倉田直純(専門監業課長)

大川勝宏(主幹)

新名 強(技師)

角正芳浩(技師)

山本達也(臨時技術補助員)

平成23年度

泉 雄二(副参事兼課長)

大川勝宏(主幹)

新名 強(主査)

水谷 豊(技師)

3 齋宮跡調査研究指導委員会

齋宮跡の調査・整備について指導・助言を得るため、平成22年8月3日、平成23年1月21日の2回、委員会を開催し、第167・168・169・171次調査と今後の整備について指導を得た。指導委員の方々は下記のとおりである。(五十音順・敬称略)

浅野 聡(三重大学准教授)
 金田章裕(人間文化研究機構構構長)
 佐々木恵介(聖心女子大学教授)
 鈴木嘉吉(元奈良国立文化財研究所長)
 所 京子(岐阜聖徳学園大学名誉教授)
 八賀 晋(三重大学名誉教授)
 増岡 徹(京都橋大学教授)
 町田 章(前奈良文化財研究所長)
 渡辺 寛(皇學館大学名誉教授)
 綿貫友子(大阪教育大学教授)

4 齋宮跡整備・活用検討会

史跡東部の整備・活用に関し、指導・助言を得るため、平成22年12月14日、平成23年3月16日の2回、検討会を開催し、史跡東部整備事業における基盤整備実施設計・復元建物基本設計案についての検討を行った。また、整備についてはソフト面を重視した住民参画についてロードマップを示し、検討を行った。平成19年から4カ年にわたって行ってきた成果を総括し、当検討会を解散した。検討委員の方々は下記のとおりである。(五十音順・敬称略)

浅野 聡(三重大学准教授)
 作野かをる(国史跡齋宮跡保存協会副理事長)
 高田敏男(奈良文化財研究所建造物研究室長)
 千種清美(フリーライター)
 辻 孝雄(国史跡齋宮跡協議会会長)
 西村和浩(第三銀行経済研究所長)
 平澤 毅(奈良文化財研究所遺跡整備研究室長)
 増岡 徹(京都橋大学教授)

調査次数	地区	面積(m ²)	調査期間	位置	土地所有者	現状変更	保存地区区分
167	R10	537	H22.5.17～H22.9.9	明和町齋宮字西加座	明和町	計画発掘調査	1
168	R10	239	H22.7.20～H22.8.30	明和町齋宮字西加座	個人	計画発掘調査	1
169	Q11	71	H22.9.27～H22.10.25	明和町齋宮字御館	明和町	計画発掘調査	1
171	R11	37	H22.6.24～H22.11.18	明和町齋宮字柳原	明和町	計画発掘調査	1
170-1	R11	64	H22.4.19～H22.4.23	明和町齋宮字柳原	個人	例木抜根	1
170-2	K4-5	94	H22.4.5～H22.4.16	明和町竹川字古里	個人	個人住宅新築	3
170-3	M14	62	H22.6.3～H22.6.9	明和町齋宮字木葉山	個人	個人住宅新築・浄化槽設置	3
170-4	R13	60	H22.7.6～H22.7.20	明和町齋宮字鈴池	個人	個人住宅改築・浄化槽設置	3
170-5	M11	8	H22.7.9	明和町齋宮字広頭	企業	鉄柱撤去・新設	3
170-6	P13	3	H22.9.27	明和町齋宮字牛葉	個人	便槽撤去・浄化槽新設	4
170-7	R8	10	H22.8.23～H22.8.27	明和町齋宮字西前沖	個人	進入路・駐車場造成	2
170-8	V13	3	H22.8.27	明和町齋宮字笛川	個人	便槽撤去・浄化槽新設	4
170-9	P12	30	H22.10.6	明和町齋宮字牛葉	個人	便槽撤去・浄化槽新設	3
170-10	J13	38	H22.10.12～H22.10.15	明和町齋宮字南裏	個人	個人住宅新築	3
170-11	H12	42	H22.12.2～12.3	明和町齋宮字中垣内	個人	個人住宅建替え	4
170-12	R13	9	H22.12.6	明和町齋宮字牛葉	個人	個人住宅建替え	3
170-13	G11	25	H23.3.2～3.4	明和町齋宮字中垣内	個人	敷地造成	3

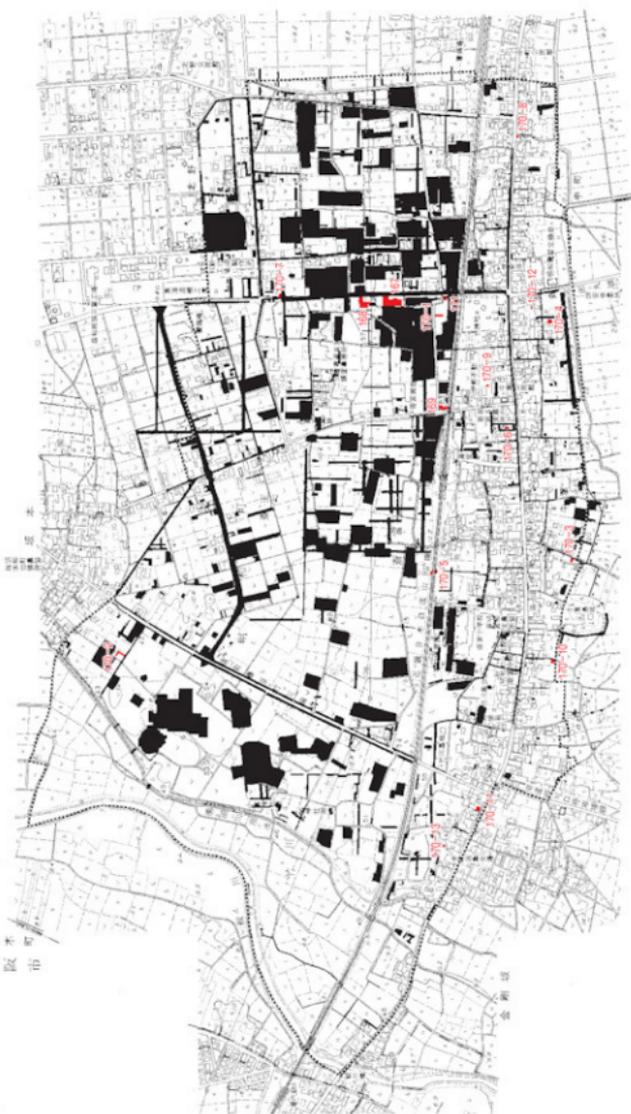
第1-1表 平成22年度 発掘調査一覧表



第 I - 1 図 史跡高宮跡位置図 (1 : 50,000) 国土地理院発行 1/25,000「松阪」「明野」(平成 4 年)より



松
阪
市

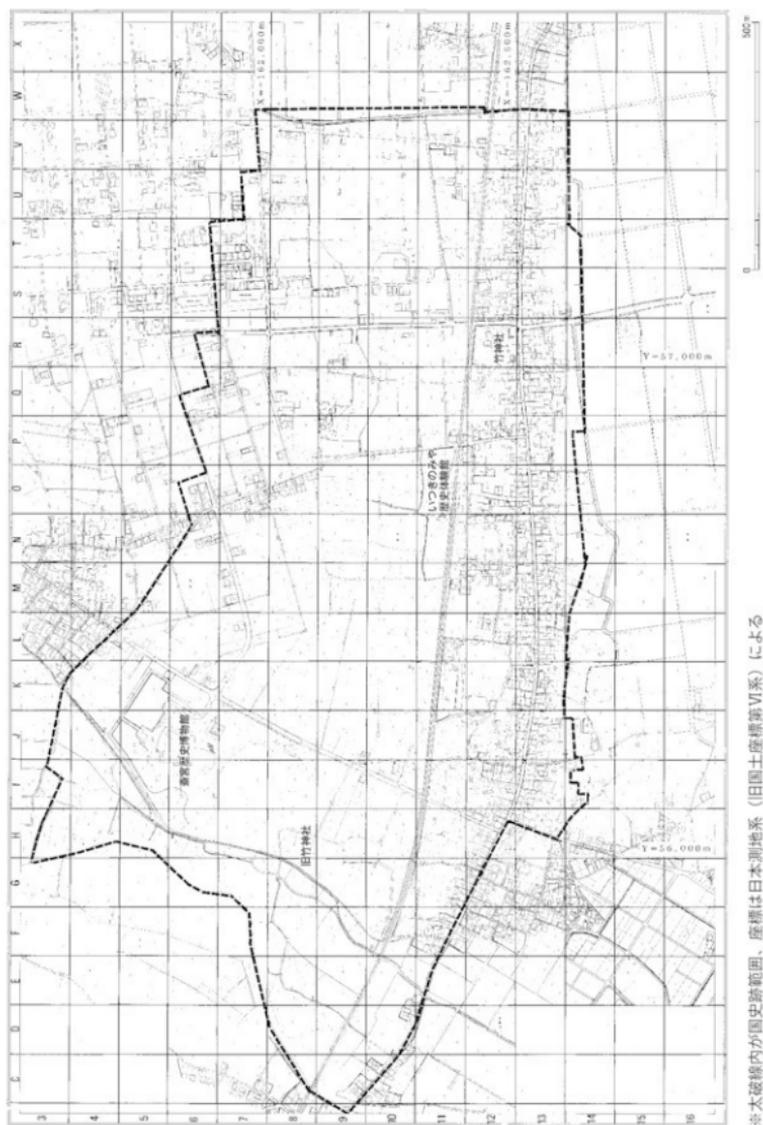


松
阪
市

第1-2图 平成22年度免振調査区位置图(1:10,000)



第 I - 3 図 斎宮跡方格地割区画名称図 (1 : 5,000)



※太破線内が国史跡範囲、産権は日本測地系（旧国土座標第Ⅵ系）による

第1-4図 史跡斎宮跡における大地区表示図（2002年）

Ⅱ 第167次調査 (6AR10 柳原地区)

1 はじめに

第167次調査区は、史跡東部の柳原区画に位置している。当該区画は、「内院」推定地である牛業東区画の北隣、方格地割のほぼ中心に位置し、齋宮寮の中でも重要な役割を担った場所であることが想定されてきた。実際、第152次調査では、区画中央部で四面庇建物が複数回の建替えを行いながら長期間存続していたことが確認されており、第20・153次調査でも大型の三面庇建物が確認されるなど、柳原区画が齋宮寮の中核部分であることが判明している。第167次調査は、柳原区画の北東部において、区画の建物の変遷や空間利用の実態解明を目的として実施した。

調査は平成22年5月17日から平成22年9月9日まで実施し、調査面積は537㎡である。

2 地形と層位

調査区は標高約10.4～10.6mの平坦地であるが、調査地は多目的砂利広場として利用されていたため盛土が行われており、旧地表面は標高約10.2mであった。調査区北側は低くなっており、北西側から浅い谷が入り込んでいる。

基本層位は、砕石・盛土下に灰黄褐色砂質土の旧表土があり、暗褐色砂質土の遺物包含層が約0.1～0.3m堆積し、その下で黄褐色粘土の地山を確認した。遺構は地山面で検出している。

3 遺構

この調査では、奈良時代末から平安時代末期を中心とした掘立柱建物28棟、井戸1基、溝7条、土坑23基を確認した。

(1) 齋宮Ⅰ-4の遺構

SB9709 調査区北西部で確認した桁行5間×梁行2間の東西棟で、桁行2.4m×梁行2.1mを測る。建物軸はN2°W。建物の西側は第152次調査で確認されており、今回の調査では、東側4間分を確認した。柱掘形は一辺1mで、隅丸方形を呈する。齋宮Ⅰ-

4期に相当する。

SB9735 調査区西端中央部に位置し、第152次調査で確認された桁行5間×梁行2間の東西棟で、東側柱列のみを確認した。桁行2.0m×梁行2.1mを測り、建物軸はN4°Wであった。齋宮Ⅰ-4期～Ⅱ-1期に相当する。

SB10163 調査区東端中央部で確認した桁行1間以上×梁行2間の東西棟で、梁行2.0mを測る。建物軸はN0°W。建物は調査区東側へ展開する。土師器皿(18)・甕(19)が出土している。齋宮Ⅰ-4期に相当する。

SE10210 調査区北端部に位置する井戸で、遺構の南半部を確認した。遺構は検出面で約1.7mを測り、検出面から0.35m下で直径1.1mとなる。検出面から深さ1.4mまで掘削したが、遺構はさらに続く。井戸の中層から土師器杯(13)が、上層から土師器皿(14)が出土しているほか、土師器輪・甕・甗、須恵器なども出土している。齋宮Ⅰ-4～Ⅱ-1期に埋

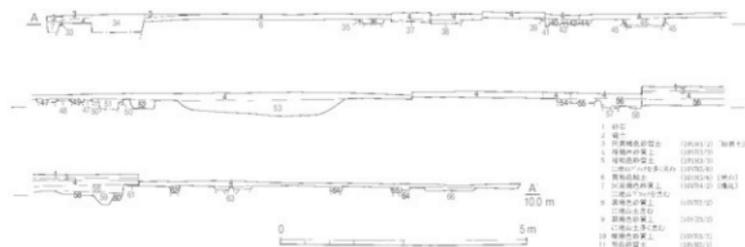


第Ⅱ-1図 第167次調査 グリッド図 (1:400)



第II-2図 第167・168・169・171次調査 調査区位置図 (1:2,000)

調査区東壁



調査区北壁



第Ⅱ-4図 第167次調査 土層断面図(1:100)

没したものと考えられる。

SK10213 調査区北端部に位置する土坑で、遺構の南半部を確認した。東西約2m程の不正形を呈する遺構で、SK10214・10215より古い。土師器杯(1~9)・椀・皿(10)・甕(11)・盤(12)・甌が出土している。斎宮Ⅰ~4期に相当する。

(2)斎宮Ⅱ-1~2期の遺構

SB9712 調査区西端中央部に位置し、東側柱筋のみを確認した。桁行3間×梁行2間の南北棟で、建物軸はN2°Wを測る。西半部は第152次調査で検出されている。調査区西端の溝によって削平を受けており、北東隅の柱穴は確認できなかった。斎宮Ⅱ-1期に相当する。

SB10156 調査区北西部に位置している。桁行5間×梁行2間の南北棟で、桁行21m×梁行2.5mを測る。建物軸はN2°W。溝によって削平を受けており、棟持柱は南北と欠損する。遺構の重複関係より、SB10157より新しく、SK10225より古い。斎宮Ⅱ-2期以降のものと考えられる。

SB10157 SB10156に重複する遺構で、桁行5間×梁行2間の南北棟。桁行1.84m×梁行2.2mを測る。建物軸はN3°W。西側柱列は、溝によって削平を受け、柱穴の底部のみを確認した。柱掘形は一辺0.4~0.7mの隅丸方形を呈する。SB10156よりも古く、斎宮Ⅱ-2期に相当する。

SB10158 調査区北東部に位置し、東南部は調査区外へ展開する。桁行3間以上×梁行2間の東西棟で、桁行2.7m×梁行2.6mと柱間がやや長い。建物軸はN2°Wを測る。柱掘形は一辺0.7~0.8mの隅丸方形を呈する。斎宮Ⅱ-1~2期に相当する。

SB10161 調査区北東端部に位置する桁行5間×梁行2間の東西棟で、西側柱列のみを確認した。東半部は第10次調査区へ続く。桁行2.1m×梁行2.05mを測る。建物軸はN2°W。斎宮Ⅱ-2~3期に相当する。

SB10162 調査区中央部に位置する桁行5間×梁行2間とみられる東西棟で、西側柱列は溝によって削平され、東側柱列は調査区外へ展開する。桁

行1.9m×梁行2.0mを測る。建物軸はN2°W。S D 10224やS K 10218よりも古く、斎宮Ⅱ-2～3期に相当する。

SB10164 調査区東端中央部に位置している。建物の西側は後世の溝によって削平を受ける。桁行5間×梁行2間の東西棟と考えられ、桁行2.0m×梁行2.4mを測る。建物軸はN2°W。土師器甕(20)が出土しており、斎宮Ⅱ-1～2期の遺構と考えられる。

SB10165 調査区中央部に位置する桁行3間×梁行2間の東西棟で、桁行2.0m×梁行2.1mを測る。建物軸はN1°W。柱穴の重複関係よりS B10167よりも古い。土師器杯(21・22)・皿(23)、須恵器杯(24)、土鍾(25)が出土している。斎宮Ⅱ-2期に相当する。

SK10218 調査区北部に位置する土坑で、長径2.0m×短径1.4mの不正形を呈する。土師器甕や須恵器甕が出土している。斎宮Ⅱ-2期頃に相当する。

SK10222 調査区北東部に位置する土坑で、長径2.4m×短径2.3mの不正形を呈する。遺構の重複関係よりS B10158・S K10221より古い。土師器杯・皿・甕、須恵器杯蓋・甕、灰釉陶器碗が出土している。斎宮Ⅱ-1～2期に相当し、灰釉は混入したものと考えられる。

SK10229 調査区東端中央部に位置する土坑で、遺構の大部分は調査区外に展開する。深さ0.34mで、土師器杯・皿(16)・高杯(17)・甕・甌、須恵器杯(15)・甕・壺が出土している。斎宮Ⅱ-1に相当する。

(3) 斎宮Ⅱ-3～4期の遺構

SB10152 調査区北端部に位置する東西3間の柱列を確認したが、建物になる可能性が高い。柱間は1.9mを測り、柱方向はN1°W。東端の柱痕跡からは、土師器杯(37～48)・皿(36)・高杯(50)・甌(49)、灰釉陶器碗(51・52)・皿(53・54)・壺(55)が一括して出土していることから、これらは建物の廃絶に伴い、一括して廃棄されたものと考えられる。斎宮Ⅱ-4期までに廃絶したものと考えられる。

SB10155 調査区北東端に位置する桁行5間×梁行2間と考えられる南北棟で、東半部は調査区外に展開する。桁行1.8m×梁行2.0mを測り、建物軸はN3°W。遺構の重複関係よりS B10160よりも新し

い。灰釉陶器碗(34)が出土しており、斎宮Ⅱ-4期の遺構と考えられる。

SB10159 調査区北東部に位置する桁行5間×梁行2間の東西棟で、桁行1.9m×梁行2.2mを測り、建物軸はN2°W。柱穴がほぼ重複し、S B10160より古い。いくつかの柱痕跡からは、人頭程度の石が出土しており、廃絶時に意図的に投入された可能性も考えられる。斎宮Ⅱ-3期の遺構のもの。

SB10160 調査区北東部に位置する桁行5間×梁行2間の東西棟で、桁行1.9m×梁行2.2mを測り、建物軸はN3°W。遺構の重複関係より、S B10159の建替えと考えられる。斎宮Ⅱ-4期の遺構と考えられる。

SB10166 調査区中央部に位置する桁行5間×梁行2間と考えられる東西棟で、桁行2.1m×梁行2.4m、建物軸はN2°Wを測る。遺構の重複関係よりS K10228よりも古く、斎宮Ⅱ-3期頃のものと考えられる。

SB10167 調査区南半部に位置する桁行3間×梁行2間の東西棟で、桁行1.95m×梁行2.0mを測る。建物軸はN4°W。遺構の重複関係より、S B10165より新しく、斎宮Ⅱ-3期に相当する。

SB10168 調査区南半部に位置する桁行3間以上×梁行2間の東西棟で、桁行2.25m×梁行2.4mを測る。建物軸はN4°W。S B10165より新しく、斎宮Ⅱ-3期に相当する。

SB10172 調査区南端部に位置する桁行3間×梁行2間の南北棟で、桁行2.0m×梁行2.1mを測る。建物軸はN3°W。遺構の重複関係より、S K10237より古く、斎宮Ⅱ-3期に相当する。

SB10173 調査区南端部に位置する桁行3間以上×梁行2間の南北棟建物。梁行2.1mに対し桁行が3.7mと長く、通常の建物とは異なる。間に補助的な柱穴が存在するか特別な目的を持った建物などの可能性も含めて、建物としてとらえた。建物軸はN3°W。斎宮Ⅱ-3～4期に相当する。

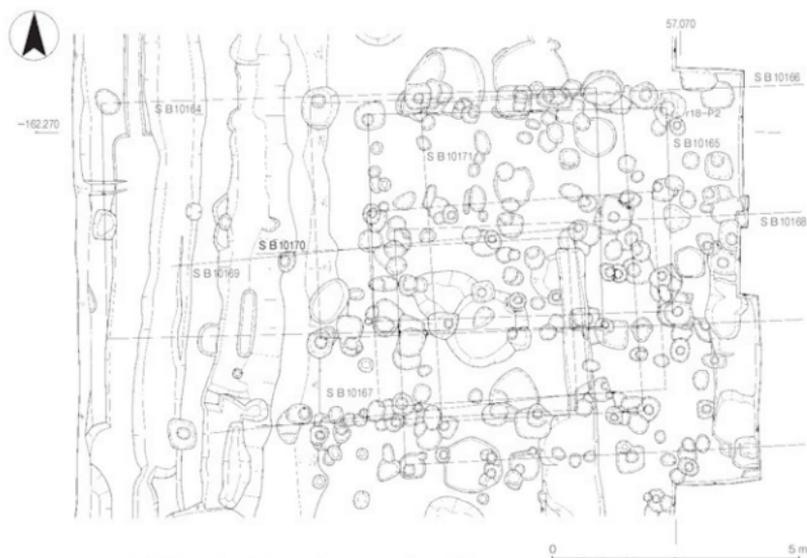
SB10174 調査区南端部に位置する桁行3間以上×梁行2間の東西棟で、建物の西側は後世の溝によって削平を受けており、東側は調査区外へ展開する。桁行5間になると考えられ、桁行1.9m×梁行1.7mを測る。建物軸はN5°W。遺構の重複関係よ

遺構名	調査時 遺構名	ビット番号		時期	規模 間(m)×間(m)	柱間寸法 (m)	主軸	方位 (N規準)	備考
		※()はグリッド番号							
SB 9709		6i16P2/6i14P4/6i14P15/ 6i15P2/6i16P2		I-4	5(10.5)×2(4.8)	(桁行) 2.1 (梁行) 2.4	東西	N2° W	第152次調査で確認
SB 9712		6i17P2		II-1	3(7.2)×2(4.8)	(桁行) 2.4 (梁行) 2.4	南北	N2° W	第152次調査で確認
SB 9735		6i18P1		I-4 ~ II-1	5(10.0)×2(4.2)	(桁行) 2.0 (梁行) 2.1	東西	N4° W	第152次調査で確認
SB 10151	建物13	6i13P2/6i13P17・ P20/6i12P2		II	(-)×2(4.2)	(桁行) 1.85 (梁行) 2.1	南北	N1° W	
SB 10152	建物8	6i13P6/6i13P8・P18/6i13P9		II-4	3(5.7)×(-)	(桁行) 1.9	東西	N1° W	
SB 10153	建物12	6i13P13/6i13P12・ P22/6i13P16		II	3(5.7)×(-)	(桁行) 1.9 (梁行) -	東西	N1° W	溝状建物か
SB 10154	建物1	6i13P4・P8/6i14P5・P11・ P16/6i13P17・P19・ P20/6i14P12・ P15/6i13P7/6i14P9・P17		~III-2	5(9.8)×2(3.7)	(桁行) 1.95 (梁行) 1.85	東西	N5° W	柱痕より発出土
SB 10155	建物6	6i13P12/6i14P7/6i15P1/6i13P1/6i15P1		II-4	5(9.0)×(-)	(桁行) 1.8 (梁行) 2.0	南北	N3° W	SB10160より新
SB 10156	建物15	6i14P1/6i16P1/6i17P1・ P2/6i14P3/6i15P2		II-2	5(10.5)×2(5.0)	(桁行) 2.1 (梁行) 2.5	南北	N2° W	SK10225より古
SB 10157	建物5	6i14P5/6i17P1・ P3/6i14P9/6i15P3・ P9/6i16P5・P6/6i17P2		II-2	5(9.0)×2(4.6)	(桁行) 1.84 (梁行) 2.2	南北	N3° W	
SB 10158	建物14	6i15P8/6i16P4/6i15P3・P1・ P5/6i16P9/6i15P11		II-1~2	(-)×2(5.2)	(桁行) 2.7 (梁行) 2.6	東西	N2° W	SK10222より新
SB 10159	建物3	6i14P4/6i15P4/6i14P3/6i15P7・ P16・P17/6i14P8・ P11/6i14P1・P2/6i15P2		II-3	5(9.5)×2(4.2)	(桁行) 1.9 (梁行) 2.2	東西	N2° W	SB10160より古 柱痕に互
SB 10160	建物4	6i14P6/6i14P10/6i14P12/6i14P3		II-4	5(9.2)×2(4.4)	(桁行) 1.8 (梁行) 2.1	東西	N3° W	SB10159より新
SB 10161	建物24	6i14P6/6i15P6		II-2~3	5(10.5)×2(4.1)	(桁行) 2.1 (梁行) 2.05	東西	N2° W	第10次調査で確認
SB 10162	建物10	6i15P3/6i15P6/6i16P8/6i15P14/6i16P12		II-2~3	5(-)×2(4.0)	(桁行) 1.9 (梁行) 2.0	東西	N2° W	SD10224より古
SB 10163	建物26	6i16P7・P10/6i17P3		I-4	(-)×2(4.0)	(桁行) - (梁行) 2.0	東西	N0° W	
SB 10164	建物16	6i18P2/6i19P3/6i18P26・ P29/6i19P15/6i18P5・ P18/6i19P8		II-1~2	(-)×2(4.8)	(桁行) 2.0 (梁行) 2.4	東西	N2° W	SK10228より古
SB 10165	建物9	6i18P1/6i18P11/6i19P22・ P25/6i18P2・11/6i19P16		II-2	3(6.0)×2(4.2)	(桁行) 2.0 (梁行) 2.1	東西	N1° W	SB10167より古
SB 10166	建物17	6i18P17・P18/6i19P18・ P23/6i18P6・P24/6i19P9		II-3	5(10.5)×2(4.8)	(桁行) 2.1 (梁行) 2.4	東西	N2° W	SK10228より古
SB 10167	建物23	6i18P3/6i18P8・ P19/6i19P26/6i18P12/6i19P4・ P22		II-3~4	3(5.85)×2(4.0)	(桁行) 1.95 (梁行) 2.0	東西	N4° W	SB10165より新
SB 10168	建物19	6i18P23/6i20P3・ P23/6i18P14/6i20P20		II-3	(-)×2(4.8)	(桁行) 2.25 (梁行) 2.4	東西	N4° W	
SB 10169	建物20	6i19P7・P10・P21・ P27/6i19P8・P9・P34		III?	(-)×2(3.4)	(桁行) 2.0 (梁行) 1.7	東西	N6° W	
SB 10170	建物21	6i19P6・P9・P31・ P28/6i19P15		III?	(-)×2(3.5)	(桁行) 2.0 (梁行) 1.75	東西	N4° W	
SB 10171	建物18	6i18P5・P25/6i19P17・ P20/6i20P15/6i18P13/6i19P2・ P38		II~	3(6.0)×2(4.1)	(桁行) 2.2 (梁行) 2.05	南北	N4° W	
SB 10172	建物11	6i19P9/6i20P2・ P4/6i21P10/6i20P5/6i21P2・ P19		II-3	3(6.0)×2(4.2)	(桁行) 2.0 (梁行) 2.1	南北	N3° W	
SB 10173	建物25	6i19P7/6i20P5/6i21P5/6i19P19・ P24/6i20P9/6i21P13		II-3~4	(-)×2(4.2)	(桁行) 3.7 (梁行) 2.1	南北	N3° W	
SB 10174	建物7	6i20P6/6i21P8/6i20P8/6i21P11・ P18/6i21P1		~II-3	(-)×2(3.4)	(桁行) 1.9 (梁行) 1.7	東西	N5° W	
SB 10175	建物22	6i20P1/6i20P1/6i21P7/6i20P5・ P17/6i21P13		II-3	(-)×2(3.4)	(桁行) 2.0 (梁行) 1.7	東西	N4° W	

第II-1表 第167次調査 堀立柱建物一覧表

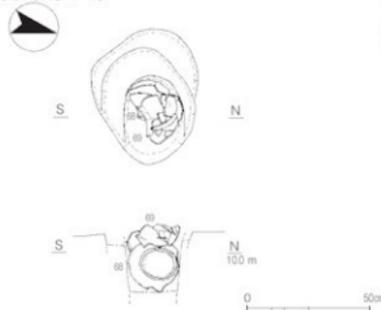
遺構名	調査時 遺構名	グリッド	時 期	出土遺物	備 考
SD 10207	溝5	o12-o15	Ⅲ-3～	土師器皿	
SD 10208	溝6	o12-o22	鎌倉前期	土師器碗・甕・甗、須恵器甕、陶器山茶碗	SD10207より新
SD 10209	溝2	p12-p22	近世	土師器、陶器壺、近世陶磁器片、瓦	
SE 10210	井戸1	q12-q13	I-4～II-1	土師器杯・皿・甗、須恵器	
SD 10211	溝7	r12-r13	II-3～4	土師器皿・甕、灰軸陶器碗	SB10153に関する溝か
SD 10212	溝9	s12-s13	II-3～4	土師器甕、須恵器甕	SB10153に関する溝か
SK 10213	土坑4	r12	I-4	土師器杯・碗・皿・盤・甕・甗	SK10214・10215より古
SK 10214	土坑5	r13	Ⅲ-2～	土師器台付皿・甕、須恵器甕、ロクロ土師器台付皿、灰軸陶器碗	
SK 10215	土坑20	r13-s13	Ⅲ-2	土師器杯・皿・台付皿・甕・甗、緑軸陶器、灰軸陶器碗、釘	
SK 10216	土坑21	q14	II-3	土師器杯・甕・甗、黒色土器、須恵器杯・甕、灰軸陶器碗	
SK 10217	土坑25	q15	II?	土師器、須恵器甕	
SK 10218	土坑18	q15-q16	II-2	土師器甕、須恵器甕	SB10162より古
SK 10219	土坑16	q16	II-3～4	灰軸陶器碗・皿、土鍾	
SK 10220	土坑35	q16-r16	Ⅲ?	土師器甕	
SK 10221	土坑12	r15-s15	Ⅲ-3	土師器皿・高杯・甕、須恵器甕、ロクロ土師器皿・台付皿、灰軸陶器、陶器山茶碗	SK10222より新
SK 10222	土坑13	s14-s15	II-1～2	土師器杯・皿・甕、須恵器杯蓋・甕、灰軸陶器碗	SB10158・SK10221より古
SD 10223	溝11	q16-r16	II?	土師器	
SD 10224	溝10	q16-r16	Ⅲ-2～	土師器皿、灰軸陶器碗	SB10162より古
SK 10225	土坑9	p17-q18	Ⅲ-2～3	土師器杯・甕、須恵器壺、灰軸陶器碗	SB10156より新
SK 10226	土坑26	q18	Ⅲ?	-	SK10227より古
SK 10227	土坑23	q18	Ⅲ?	土師器甕、灰軸陶器	
SK 10228	土坑24	q18-r18	II-3	土師器高杯・甕、須恵器壺	SB10164・10166より新
SK 10229	土坑11	r16-r17	II-1	土師器杯・皿・高杯・甕・甗、須恵器杯・甕・壺	
SK 10230	土坑10	r17-r18	II-3	土師器杯・碗・皿・甕、台付甕、須恵器壺、灰軸陶器碗・皿、緑軸陶器碗	
SK 10231	土坑28	q19	～Ⅲ-2	土師器甕、須恵器蓋・高杯・甕、ロクロ土師器皿	
SK 10234	土坑29	q20	II?	土師器、緑軸陶器	
SK 10235	溝12	r19-r20	Ⅲ-1	土師器碗・皿・甕・甗、須恵器杯、灰軸陶器皿	I-4～II-4期の土器を含む。
SK 10236	土坑34	q20	Ⅲ-2～3	土師器甕、灰軸陶器、陶器壺	
SK 10237	土坑1	p20-q21	Ⅲ-2	土師器杯・皿、ロクロ土師器皿・台付皿、須恵器甕・壺、灰軸陶器碗、粘土塊、不明金属製品	
SK 10238	土坑31	p21-q21	Ⅲ-3～	土師器皿・高杯、ロクロ土師器皿、灰軸陶器	
SK 10239	土坑32	q21	Ⅲ-3～	土師器甕・台付皿、ロクロ土師器台付皿	SK10238より古

第Ⅱ-2表 第167次調査 遺構一覧表



第Ⅱ-5図 第167次調査 SB 10164～10171 平面図 (1:100)

SB10154 (r13-P17)

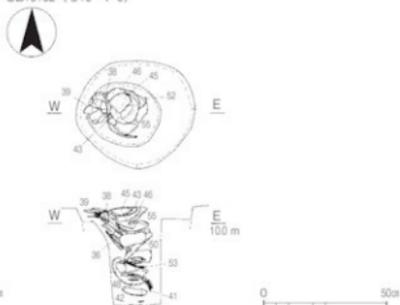


第Ⅱ-6図 第167次調査
SB 10154 土器出土状況図 (1:20)

り、SB 10172より古く、斎宮Ⅱ-3期以前のものと考えられる。

SB 10175 SB 10174と重複する桁行3間以上×梁行2間の東西棟で、東西側柱列についてもSB 10174と同様である。桁行5間になると考えられ、桁行2.0m×梁行1.7mを測る。建物軸はN 4°W。遺構の重複がないため、SB 10174との前後関係は不明だが、建物位置や柱間隔などから考えて、建

SB10152 (s13-P9)



第Ⅱ-7図 第167次調査
SB 10152 土器出土状況図 (1:20)

替への可能性が考えられる。斎宮Ⅱ-3期以降のもの。

SK 10216 調査区北部に位置する土坑で、長径1.6m×短径1.5m、深さ0.26mの楕円形を呈し、東半部は0.35mと深い。土師器杯・甕(26)・甌、黒色土器、須恵器杯・甕、灰軸陶器碗が出土している。斎宮Ⅱ-3期に相当する。

SK 10219 調査区北部に位置する土坑で、遺構の

大部分はSK10220によって削平を受ける。灰軸陶器碗・皿、土鉢が出土しており、斎宮Ⅱ～3～4期に相当する。

SK10228 調査区中央部に位置する土坑で、直径1.5m、深さ0.05mの円形を呈する。遺構の重複関係より、SB10164・10166よりも新しい。土師器高杯・甕、須恵器壺が出土している。斎宮Ⅱ～3期頃の遺構と考えられる。

SK10230 調査区中央部に位置する土坑で、長径1.6m×短径1.5m、深さ0.2mの楕円形を呈する。土師器杯(28・29)・碗・皿・甕(30)・台付甕、須恵器壺、灰軸陶器碗・皿(27)、緑軸陶器碗(30)が出土している。斎宮Ⅱ～3期に相当する。

(4) 斎宮Ⅱ期の遺構

SB10151 調査区北辺部に位置する桁行3間以上×梁行2間の南北棟で、建物の北半は調査区外へ展開する。桁行1.85m×梁行2.1m、建物軸はN0°Wを測る。

SB10153 調査区北端に位置する。東西3間の柱列を確認した。柱間1.9mを測り、柱方向はN1°W。建物の南側柱列になるものと考えられ、北半は調査区外に展開する。東西側柱列部分に重複して幅0.3～0.4m、深さ約0.1mのSD10212・10211が存在する。柱穴は溝の底部で確認しており、溝持柱と考えられる。斎宮Ⅱ期頃のものか。

SB10171 調査区南部に位置する桁行3間×梁行2間の南北棟。桁行2.2m×梁行2.05m、建物軸はN4°Wを測る。

SD10223 調査区中央部に位置する溝で、全長1.8m×幅0.7mを測る。土師器片が出土している。

SK10217 調査区北部に位置する土坑で、長径1.3m×短径0.9mの楕円形を呈する。土師器片や須恵器壺が出土している。

SK10234 調査区南部に位置する土坑で、直径1.2m、深さ0.2mの円形を呈する。土師器片や緑軸陶器片が出土している。

(5) 斎宮Ⅲ期の遺構

SB10154 調査区北部に位置する桁行5間×梁行2間の東西棟で、桁行1.95m×梁行1.85mを測り、建物軸はN5°W。土師器小皿(67)・台付鉢(68)・土師器甕(69)、白磁碗(70)が出土している。68～

70はr13-P17の柱痕跡から出土しており、建物は斎宮Ⅲ～2期以前のものと考えられる。ただし、この柱穴には重複がみられることから、r13-P17は建物廃絶後のものの可能性も考えられる。

SD10207 調査区の北西部に位置する南北溝で、延長6.5mを確認した。SD10208によって削平を受ける。幅0.5m×深さ0.3mを測り、土師器皿が出土している。斎宮Ⅲ～3期以降のもの。

SD10224 SD10223の南側に位置する東西方向の溝で、調査区外へ続く。幅0.6m、深さ0.15mを測り、土師器皿、灰軸陶器碗が出土している。斎宮Ⅲ～2期以降のものと考えられる。

SK10214 調査区北端部に位置する土坑で、長径1.85m×短径1.4m、深さ0.2mの楕円形を呈する。土師器台付皿・甕、須恵器壺、ロクロ土師器台付皿、灰軸陶器碗が出土している。斎宮Ⅲ～2期以降のものである。

SK10215 調査区北端部に位置する土坑で、長径1.6m以上×短径1.3m、深さ0.2mの楕円形を呈する。土師器杯(57・58)・皿・台付皿・甕・甑、緑軸陶器、灰軸陶器碗、釘(59)が出土している。斎宮Ⅲ～2期以降のもの。

SK10221 調査区北東部に位置する土坑で、直径約3.0mの楕円形を呈し、南半部は調査区外に展開する。土師器皿・高杯・甕、須恵器壺、ロクロ土師器皿・台付皿、灰軸陶器、陶器碗が出土している。遺構の重複関係よりSK10222より新しく、斎宮Ⅲ～3期以降に相当すると考えられる。

SK10225 調査区中央部に位置する土坑で、長径2.5m×短径2.3m、深さ0.2mの楕円形を呈する。土師器杯・甕、須恵器壺、陶器碗が出土しているが、いずれも小片である。斎宮Ⅲ～2～3期に相当する。

SK10238 調査区南端部に位置する土坑で、一辺約1.8mの方形状を呈するが、南半部は調査区外に展開する。土師器皿・高杯、ロクロ土師器皿、陶器が出土している。斎宮Ⅲ～3期以降のもの。

SK10239 調査区南端部に位置する土坑で、西半部はSK10238によって削平を受ける。土師器甕・台付皿、ロクロ土師器台付皿が出土している。斎宮Ⅲ～3期以降のもの。

SK10231 調査区南部に位置する土坑で、長径1.8m以上×短径1.6m、深さ0.2mの楕円形を呈する。土師器甕、須恵器蓋・高杯・甕、ロクロ土師器皿が出土している。斎宮Ⅲ-2期頃までのもの。

SK10235 調査区中央東端に位置する土坑で、遺構の東半部は調査区外に展開する。深さ0.1mで埋土は黒色砂質土であった。土師器椀・皿(60～63)・甕(64)・甕、須恵器杯、灰軸陶器皿が出土している。遺物には斎宮Ⅰ-4、Ⅱ-3～4期のものも含むが、埋没時期はⅢ-1期と考えられる。

SK10236 SK10237の北半で確認した土坑で、長径1.6m×短径1.0mの隅丸三角形を呈する。土師器甕、灰軸陶器片、陶器壺(73)が出土している。斎宮Ⅲ-2～3期に相当する。SK10237と一連の遺構かもしれない。

SK10237 調査区南部に位置する土坑で、長径2.4m×短径2.0mの楕円形を呈し、北半部はSK10236が重複する。土師器杯(65)・皿、ロクロ土師器皿・台付皿、須恵器甕・壺、灰軸陶器椀、粘土塊、不明金属製品(66)が出土している。斎宮Ⅲ-2期に相当する。

(6)その他の時期の遺構

SD10208 調査区の北西部に位置する南北溝で、幅0.7～1.3m、深さ0.3mを測る。土師器椀・甕・甕、須恵器甕、陶器山茶碗が出土している。山茶碗は藤沢良祐氏の山茶碗編年の第5型式¹⁾にあたる。鎌倉前期の遺構と考えられる。

SD10209 調査区の西部に位置する南北方向の溝で、幅0.8～1.3m、深さ0.3mを測る。土師器、陶器壺、近世陶磁器、近世瓦が出土している。調査区の西端は現在、「宇西加座」と「字柳原」の境となっており、この溝は字境を示すものと考えられる。

4 遺物

(1)斎宮Ⅰ-4～Ⅱ-1期の遺物

SK10213出土遺物(1～12) 1～4・6～9は土師器杯A。口縁部は外に開き、体部下半にはケズリが施される。2・3・7は内面体部に放射状暗文が、4は内面体部に螺旋状暗文が施される。8・9は内面体部に放射状暗文が、内面底部に螺旋状暗文が施される。5は土師器杯Gで、器壁が厚く、外面

には粘土接合痕が残る。10は土師器皿Aで、外面体部下半および底面にケズリ調整が施される。11は土師器甕Cになるものか。12は土師器甕で、口縁部は外に開く。斎宮Ⅰ-4期に相当する。

SE10210出土遺物(13・14) 13は土師器杯G。器壁が厚く、外面体部下半には指頭圧痕が残る。14は土師器皿Aで、外面体部下半は指サエ後にナデ調整が施される。斎宮Ⅰ-4～Ⅱ-1期に相当する。

SK10229出土遺物(15～17) 15は須恵器杯B。16は土師器皿Aで、器壁は厚い。17は高杯の杯部。斎宮Ⅱ-1期に相当する。

SB10163出土遺物(18・19) 18は土師器皿A。19は土師器甕Aで、口縁部は器壁が肥厚する。斎宮Ⅰ-4期に相当する。

SB10164出土遺物(20) 20は土師器甕で、外面体部には荒いハケが施される。斎宮Ⅱ-1～2期に相当する。

(2)Ⅱ-2～3期の遺物

SB10165出土遺物(21～25) 21・22は土師器杯A。口縁部は外に開き、22は外面体部下半に指頭圧痕が残る。23は土師器皿A。24は須恵器杯で、外面底部に糸切痕が残る。25は土錘。斎宮Ⅱ-2期に相当するものと考えられる。

SK10216出土遺物(26) 26は土師器甕Aで、外面体部は荒いハケが施され、内面口縁部には煤が付着する。斎宮Ⅱ-3期に相当する。

SK10230出土遺物(27～31) 28・29は土師器杯A。器壁は薄く、外面体部には指頭圧痕が残る。30は土師器甕A。球形の体部で、外面体部上半は荒いハケが施され、下半には指頭圧痕が残る。27は灰軸陶器で下半は欠損しているが、皿になるものと考えられる。斎宮Ⅱ-3期に相当する。

31は狼投産の緑軸陶器椀で、口縁部は外反する。内外面ともに除刻が施され、内面に花文が、外面に飛雲文が見られる。同一個体とみられる小片がr18-P2からも出土している。遺物は斎宮Ⅱ-2期のもの。

SB10166出土遺物(32) 土師器杯A。外面体部下半に指頭圧痕が残る。斎宮Ⅱ-4期のもの。

SB10151出土遺物(33) 土師器杯A。外面体部下半に指頭圧痕が残る。斎宮Ⅱ-4期のもの。

SB10155出土遺物(34) 灰軸陶器椀。外面底部には糸切痕が残る。折戸53号窯式併行期のものと考えられる。斎宮Ⅱ-4期のもの。

SB10171出土遺物(35) 土師器鉢。口縁部が広く外に開き、端部は上方につまみ上げられる。平底になるものと考えられる。

SB10152出土遺物(36~56) いずれも建物南東隅の柱穴s13-P9から出土したもの。36は土師器皿A、37~48は土師器椀Aで、いずれも外面体部には指頭圧痕が見られる。口縁端部は外反する。49は土師器甗で把手が付く。外面は口縁部はヨコナデが、体部上半は粗いハケが施される。下半には指頭圧痕が残る、粘土接合痕が見られる。50は土師器高杯で、表面は面取りが施される。51・52は灰軸陶器椀、53・54は灰軸陶器皿。54は口縁部に輪花が3ヶ所残っており、完形では5ヶ所あったものと考えられる。55は灰軸陶器壺。56は鉄製釘。先端は欠損するが、頭部が残る。これらは、斎宮Ⅱ-3~4期に相当するものと考えられる。

SK10215出土遺物(57~59) 57・58は土師器杯A。57は外面に粘土接合痕が残る。58は口縁端部が内湾しながら外に開く。59は鉄製品で釘か鏝と考えられる。斎宮Ⅱ-2~3期に相当するものと考えられる。

SK10235出土遺物(60~64) 60・61は土師器皿A。61は器壁が厚く、混入したものと考えられる。62・63は土師器杯Aで、口縁部は外反する。64は土師器甗A。61・64は混入したものと考えられる。遺物は主に斎宮Ⅱ-3期のものが大半を占めるが、他にI-4期やⅡ期のものも混入する。

(3)Ⅲ期の遺物

SK10237出土遺物(65・66) 65は土師器杯A。外面には指頭圧痕や粘土接合痕が残る。口縁端部は強いナデのため段が見られる。66は金属製品で器形は不明だが、底部が扁平であり、上方は屈曲して破断面が見られることから、金属製品の脚部の可能性が考えられる。現在分析中であるが、金属の表面には緑青状のものが見られ、銅製品である可能性が考えられる。SK10237からはロクロ土師器も出土しており、斎宮Ⅲ-1~2期のものである。

SB10154出土遺物(67~70) 67は土師器小皿で、口縁部はやや肥厚する。68は土師器台付鉢で、外面

体部下および底部には指頭圧痕が見られ、脚部は外に開きながら伸びる。内面底部には粘土接合痕が残る。69は土師器甗A。外面頸部は強いナデにより段を持ち、体部は上半に粗いハケが、下半には板ナデ調整が見られる。内面体部は上半には指頭圧痕が、下半は板ナデ調整が施される。70は白磁碗で、口縁端部は玉縁状を呈する。斎宮Ⅲ-2期のもの。

SD10208出土遺物(71・72) 71は近江産の緑軸陶器椀。底部には糸切痕が残る。72は陶器椀。外面底部には糸切痕が残る。この遺構には、斎宮Ⅲ-2期~鎌倉時代初頭のものを含む。

SK10236出土遺物(73) 73は陶器壺。胎土は赤褐色呈し、内外面とも黒色の釉が厚くかかる。

Pit・その他出土遺物(74~81) 74・75は土師器皿A。76は土師器杯A。口縁端部は外反する。77・78は台付皿。78は底部に糸切痕が残る。79は台付杯。80は土師器の脚部で、三足盤になるものか。81は柱穴より出土した滑石製の紡錘車で、表面は丹念に磨かれる。Pitは平安時代のものであり、紡錘車は古墳時代のものが混入したものと考えられる。

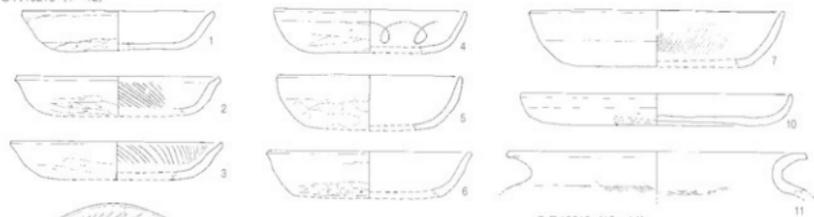
5 まとめ

今回の調査区は、柳原区画の北東部に位置するが、掘立柱建物28棟をはじめとする多数の遺構を確認している。

斎宮I-4期は遺構は少ないが、掘立柱建物は3棟確認した。いずれも調査区の中央部に位置するが、建物方向はN0~4°Wとばらつきが認められる。調査区の北端で土坑と井戸を確認しているがSE10210は、斎宮I-4~Ⅱ-1期以内には埋没したものと考えられる。柳原区画は、斎宮I-4期には区画を四等分して利用していたと考えられており、それぞれの小区画に倉庫的な建物や井戸が確認されている。SE10210は、柳原区画北東の小区画にあたり、こうした土地利用に基づいて計画的に設置されたものと考えられる。

斎宮Ⅱ-1~2期には、掘立柱建物は8棟を確認している。建物軸は主にN1~2°Wとなる。SB10156・10157は調査区中央部に位置する南北棟で、柱掘形が一辺1mを超える大型のものである。建物規模は異なるが、北側柱列を描いて重複してお

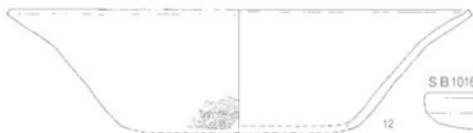
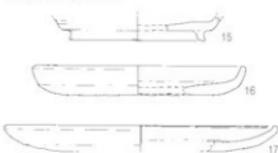
SK10213 (1~12)



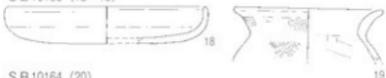
SE10210 (13・14)



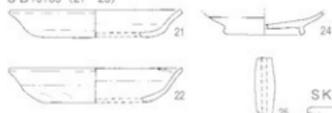
SK10229 (15~17)



SB10163 (18・19)



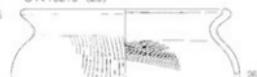
SB10165 (21~25)



SB10164 (20)



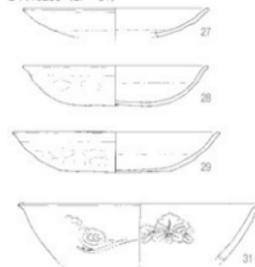
SK10216 (26)



SB10166 (32)



SK10230 (27~31)



SB10151 (33)



SB10155 (34)

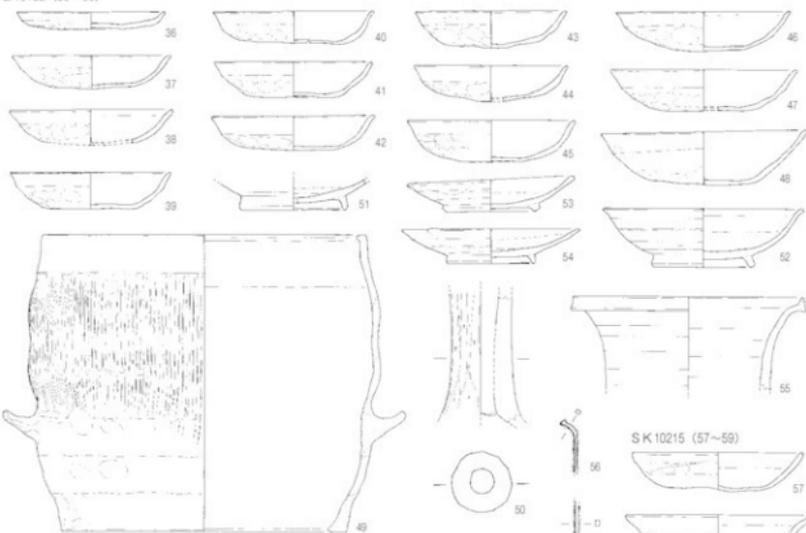


SB10171 (35)

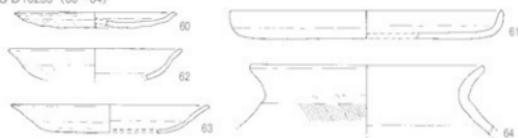


第II-8図 第167次調査 出土遺物実測図①(1:4)

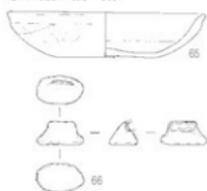
SB10152 (36~56)



SD10235 (60~64)



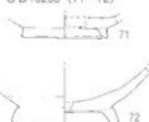
SK10237 (65~66)



SD10154 (67~70)



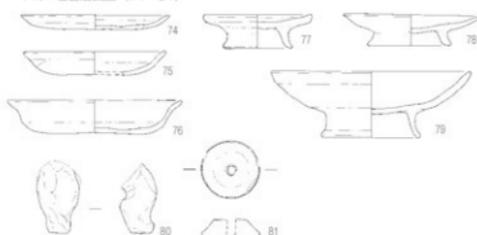
SD10208 (71~72)



SK10236 (73)



Pit・包含層出土 (74~81)



第II-9図 第167次調査 出土遺物実測図② (1:4)

番号	図種	図形	地区 図種	法量 (cm)	調整・技法の特徴	胎土	焼成	色調	残存度	備考	登録 番号
1	土器器	杯A	SK10213	口径 器高 底径 15.4 3.4 3.4	外面:ヨコナゲ、ケモノ 内底:ヨコナゲ、楕文	赤良	焼5YR6/6	全体 7/12	全体 7/12		002-01
2	土器器	杯A	SK10213	口径 器高 底径 16.2 3.2 3.2	外面:ヨコナゲ、ケモノ 内底:ヨコナゲ、放射状楕文	赤良	焼5YR6/6	口縁部 1/12	口縁部 1/12		004-03
3	土器器	杯A	SK10213	口径 器高 底径 16.9 3.1 3.1	外面:ヨコナゲ、ケモノ 内底:ヨコナゲ、放射状楕文	赤良	浅黄焼7.5YR6/6	口縁部 2/12	口縁部 2/12		003-05
4	土器器	杯A	SK10213	口径 器高 底径 15.3 3.5 3.5	外面:ヨコナゲ、ケモノ 内底:ヨコナゲ、縦線状楕文	赤良	焼5YR6/6	口縁部 1/12	口縁部 1/12		004-02
5	土器器	杯G	SK10213	口径 器高 底径 14.7 3.4 3.4	外面:ヨコナゲ、オオニ、ナゲ 内底:ヨコナゲ	赤良	灰黄2.5Y6/2	口縁部 2/12	口縁部 2/12	結土埋合痕	003-03
6	土器器	杯A	SK10213	口径 器高 底径 16.2 3.7 3.7	外面:ヨコナゲ、ケモノ 内底:ヨコナゲ、楕文	赤良	焼5YR6/6	口縁部 2/12	口縁部 2/12	結土埋合痕	003-04
7	土器器	杯A	SK10213	口径 器高 底径 20.3 4.6 4.6	外面:ヨコナゲ、ケモノ 内底:ヨコナゲ、放射状楕文	赤良	焼7.5YR7/6	口縁部 1/12	口縁部 1/12		004-01
8	土器器	杯A	SK10213	口径 器高 底径 16.0 3.6 3.6	外面:ヨコナゲ、ケモノ 内底:ヨコナゲ、放射状楕文	赤良	焼5YR6/6	全体 8/12	全体 8/12		002-02
9	土器器	杯A	SK10213	口径 器高 底径 20.9 4.0 4.0	外面:ヨコナゲ、ハナシ 内底:ヨコナゲ、放射状楕文	精良	焼5YR6/6	全体 4/12	全体 4/12		002-04
10	土器器	杯A	SK10213	口径 器高 底径 21.7 2.6 2.6	外面:ヨコナゲ、ケモノ 内底:ヨコナゲ	赤良	焼7.5YR7/6	全体 8/12	全体 8/12	器面割離	002-03
11	土器器	器C	SK10213	口径 器高 底径 23.2 3.5 3.5	外面:ヨコナゲ、ハナ 内底:ヨコナゲ	赤良	浅黄焼10YR6/4	口縁部 1/12	口縁部 1/12		003-02
12	土器器	器	SK10213	口径 器高 底径 36.8 9.8 9.8	外面:ハナ、へうとびキ	赤良	焼5YR7/6	口縁部 3/12	口縁部 3/12		003-01
13	土器器	杯G	SK10210 中層	口径 器高 底径 12.8 3.2 3.2	外面:ヨコナゲ、オオニ、ナゲ 内底:ヨコナゲ、ナゲ	赤良	紅2.5Y・焼7.5YR7/4	口縁部 2/12	口縁部 2/12		009-06
14	土器器	器A	SK10210 上層	口径 器高 底径 20.6 2.2 2.2	外面:ヨコナゲ、オオニ、ナゲ 内底:ヨコナゲ、ナゲ	赤良	焼5YR6/6	口縁部 1/12	口縁部 1/12		009-07
15	煎煮器	杯B	SK10229	口径 器高 底径 10.8 2.0 2.0	外面:ヨコナゲ、赤切痕 内底:ヨコナゲ	赤良	灰白5Y7/1	器面割離 2/12	器面割離 2/12		008-03
16	土器器	器A	SK10229	口径 器高 底径 16.2 2.4 2.4	外面:ヨコナゲ、オオニ、ナゲ 内底:ヨコナゲ、ナゲ	赤良	焼5YR7/6	口縁部 1/12	口縁部 1/12		008-02
17	土器器	器B	SK10229	口径 器高 底径 21.3 2.1 2.1	外面:ヨコナゲ、ナゲ、オオニ 内底:ヨコナゲ、ナゲ	赤良	焼5YR6/6	口縁部 1/12	口縁部 1/12		008-01
18	土器器	器A	SK10163	口径 器高 底径 15.9 3.0 3.0	外面:ヨコナゲ、オオニ、ナゲ 内底:ヨコナゲ、ナゲ	赤良	焼7.5YR7/6	口縁部 1/12	口縁部 1/12		011-02
19	土器器	器A	SK10163	口径 器高 底径 11.8 4.2 4.2	外面:ヨコナゲ、ハナ 内底:ヨコナゲ、上見ナゲ	赤良	浅黄焼10YR6/4	口縁部 2/12	口縁部 2/12		011-01
20	土器器	器	SK10164	口径 器高 底径 24.0 5.0 5.0	外面:ヨコナゲ、ハナ 内底:ヨコナゲ、ハナ	赤良	紅2.5Y・焼7.5YR7/3	口縁部 1/12	口縁部 1/12	内外面に埋付着	011-03
21	土器器	杯A	SK10165	口径 器高 底径 13.6 2.2 2.2	外面:ヨコナゲ、オオニ、ナゲ 内底:ヨコナゲ、ナゲ	赤良	焼7.5YR7/6	口縁部 1/12	口縁部 1/12	口縁部に内外面に埋付着	010-07
22	土器器	杯A	SK10165	口径 器高 底径 13.8 2.8 2.8	外面:ヨコナゲ、オオニ、ナゲ 内底:ヨコナゲ、ナゲ	赤良	焼7.5YR7/6	口縁部 2/12	口縁部 2/12	結土埋合痕	010-04
23	土器器	器A	SK10165	口径 器高 底径 15.4 1.6 1.6	外面:ヨコナゲ、オオニ、ナゲ 内底:ヨコナゲ	赤良	焼5YR6/6	口縁部 1/12	口縁部 1/12		010-05
24	煎煮器	杯	SK10165	口径 器高 底径 5.9 1.8 1.8	外面:ヨコナゲ、赤切痕 内底:ヨコナゲ	赤良	灰白2.5YR7/1	器面割離 3/12	器面割離 3/12		010-06
25	土製品	土師	SK10165	口径 器高 底径 4.9 1.6 1.6	外面:ナゲ	赤良	浅黄焼10YR6/3	口縁部 1/12	口縁部 1/12	口縁部に埋付着	010-08
26	土器器	器A	SK10216	口径 器高 底径 15.9 3.5 3.5	外面:ヨコナゲ、タテハナ 内底:ヨコナゲ、ヨコハナ	赤良	紅2.5Y・焼7.5YR7/4	口縁部 2/12	口縁部 2/12	口縁部に内外面に埋付着	015-07
27	灰輪陶器	器	SK10230	口径 器高 底径 14.7 3.4 3.4	外面:ヨコナゲ、灰輪 内底:ヨコナゲ、灰輪	赤良	灰黄2.5Y7/2	口縁部 1/12	口縁部 1/12	ナシ・焼5.0	009-03
28	土器器	杯A	SK10230	口径 器高 底径 14.7 3.3 3.3	外面:ヨコナゲ、オオニ、ナゲ 内底:ヨコナゲ、ナゲ	赤良	浅黄焼7.5YR6/4	口縁部 5/12	口縁部 5/12		014-01
29	土器器	杯A	SK10230	口径 器高 底径 16.4 3.5 3.5	外面:ヨコナゲ、オオニ、ナゲ 内底:ヨコナゲ、ナゲ	赤良	紅2.5Y・焼7.5YR7/4	口縁部 2/12	口縁部 2/12		014-02
30	土器器	器A	SK10230	口径 器高 底径 15.8 14.5 14.5	外面:ヨコナゲ、ハナ、オオニ、ナゲ 内底:ヨコナゲ、ナゲ	赤良	紅2.5Y・浅黄焼10YR7/3	口縁部 10/12	口縁部 10/12	内外面に埋付着	014-03
31	灰輪陶器	器	SK10230 r18-p2	口径 器高 底径 19.4 4.7 4.7	内外面:ナゲ・灰輪・放射状楕文	中・粗 良	黄赤・灰白5Y7/1 紅黄焼2.5Y7/3	口縁部 2/12	口縁部 2/12		001-01
32	土器器	杯A	SK10166	口径 器高 底径 12.2 2.7 2.7	外面:ヨコナゲ、オオニ、ナゲ 内底:ヨコナゲ、ナゲ	赤良	焼7.5YR7/6	口縁部 2/12	口縁部 2/12		015-03
33	土器器	杯A	SK10151	口径 器高 底径 13.7 3.4 3.4	外面:ヨコナゲ、オオニ、ナゲ 内底:ヨコナゲ、ナゲ	赤良	灰白10YR6/2	口縁部 1/12	口縁部 1/12	口縁部に埋付着	011-05
34	灰輪陶器	器	SK10153	口径 器高 底径 3.4 1.1 1.1	外面:ヨコナゲ、放射状楕文、赤切痕 内底:ヨコナゲ	赤良	紅2.5Y・浅黄焼10YR7/3	口縁部 6/12	口縁部 6/12		015-02
35	土器器	杯	SK10171	口径 器高 底径 16.7 2.4 2.4	外面:ヨコナゲ、ケモノ 内底:ヨコナゲ、ナゲ	赤良	焼2.5YR6/8	口縁部 2/12	口縁部 2/12		011-06
36	土器器	器A	SK10152	口径 器高 底径 11.8 1.4 1.4	外面:ヨコナゲ、オオニ、ナゲ 内底:ヨコナゲ	赤良	浅黄焼10YR6/3～灰黄焼10YR6/2	口縁部 5/12	口縁部 5/12	器面割離	006-05
37	土器器	器A	SK10152	口径 器高 底径 12.6 2.7 2.7	外面:ヨコナゲ、オオニ、ナゲ 内底:ヨコナゲ	赤良	外面:紅2.5Y・浅黄焼10YR7/2 内底:浅黄焼10YR6/3	口縁部 2/12	口縁部 2/12		006-07
38	土器器	器A	SK10152	口径 器高 底径 12.9 2.7 2.7	外面:ヨコナゲ、オオニ、ナゲ 内底:ヨコナゲ	赤良	外面:紅2.5Y・浅黄焼10YR6/3 内底:焼2.5YR7/6	口縁部 5/12	口縁部 5/12		006-09
39	土器器	器A	SK10152	口径 器高 底径 12.8 3.0 3.0	外面:ヨコナゲ、オオニ、ナゲ 内底:ヨコナゲ	赤良	紅2.5Y・焼7.5YR7/4～灰黄焼10YR6/2	口縁部 3/12	口縁部 3/12		006-04
40	土器器	器A	SK10152	口径 器高 底径 12.8 2.9 2.9	外面:ヨコナゲ、オオニ、ナゲ 内底:ヨコナゲ	中・粗 良	外面:灰白10YR6/2 内底:浅黄焼10YR6/3	器面割離	器面割離		005-08
41	土器器	器A	SK10152	口径 器高 底径 12.6 2.9 2.9	外面:ヨコナゲ、オオニ、ナゲ 内底:ヨコナゲ	赤良	外面:浅黄2.5YR7/3 内底:焼5YR6/8	口縁部 6/12	口縁部 6/12	器面割離	006-06
42	土器器	器A	SK10152	口径 器高 底径 13.0 2.8 2.8	外面:ヨコナゲ、オオニ、ナゲ 内底:ヨコナゲ	赤良	外面:浅黄焼10YR6/4 内底:紅2.5Y・浅黄焼10YR6/3	口縁部 6/12	口縁部 6/12	埋付着	006-03
43	土器器	器A	SK10152	口径 器高 底径 12.0 3.0 3.0	外面:ヨコナゲ、オオニ、ナゲ 内底:ヨコナゲ	中・粗 良	焼2.5Y6/6	口縁部 1/12	口縁部 1/12		006-01

第二-3表 第167次調査 遺物観察表(1)

番号	品名	品形	地区 遺構	法量 (cm)	調整・技法の特徴	胎土	構成	色調	残存度	備考	登録 番号
44	土器器	瓶A	SR10152	口徑 器高 2.9	12.2 10.9 外底:ヨコナガ 内底:ナガ	密	直	LS-6・HR7.5V97/4	口縁部 3/12	埋付書	006-08
45	土器器	瓶A	SR10152	口徑 器高 3.4	13.3 11.9 外底:ヨコナガ, オオユ, ナガ 内底:ヨコナガ	密	直	外底:浅黄褐色HV98/3 内底:橙7.5V98/6	口縁部 5/12	器底面跡あり	006-10
46	土器器	瓶A	SR10152	口徑 器高 3.2	13.8 12.1 外底:ナガ 内底:ナガ	密	直	LS-6・黄褐色HV97/4・灰黄褐色HV95/2	口縁部 7/12	口縁部埋付書	006-02
47	土器器	瓶A	SR10152	口徑 器高 3.4	14.8 13.4 外底:ヨコナガ, オオユ, ナガ 内底:ヨコナガ	密	直	灰黄褐色HV98/2	口縁部 4/12	埋付書	005-07
48	土器器	瓶A	SR10152	口徑 器高 3.4	16.4 15.0 外底:ヨコナガ, オオユ, ナガ, 内底:ヨコナガ, ナガ	密	直	外底:黄褐色HV97/4 内底:浅黄褐色HV96/2	口縁部 9/12	器底面跡あり	005-06
49	土器器	瓶	SR10152	口徑 器高 底径	25.6 24.3 22.6 外底:ヨコナガ, ハク, オオユ, ナガ 内底:ヨコナガ, オオユ, ナガ	密	直	浅黄褐色HV98/4	全体 3/12	粘土接合痕	007-01
50	土器器	高杯	SR10152	口徑 器高 底径	11.4 4.9 外底:ハクナギ 内底:上長ナガ, オオユ, ナガ	密	直	LS-6・黄褐色HV97/4	脚部 1/12	下半部熱 燻付書	007-02
51	灰輪陶器	瓶	SR10152	口徑 器高 底径	2.5 8.2 外底:ヨコナガ, ナガ, ナギ 内底:ヨコナガ, 灰輪	密	直	胎土:灰白2.5V7/1 輪:灰黄2.5V7/2	底部 3/12	内底面:遺痕	005-04
52	灰輪陶器	瓶	SR10152	口徑 器高 底径	15.8 4.9 7.7 外底:ヨコナガ, ナギ, ナガ, 灰輪 内底:ヨコナガ, 灰輪	密	直	胎土:灰白2.5V7/2 輪:灰黄2.5V7/2	底部 8/12	底面付書 和向線あり	005-03
53	灰輪陶器	皿	SR10152	口徑 器高 底径	13.1 2.1 2.1 外底:ヨコナガ, ナガ, 赤切痕, 灰輪 内底:ヨコナガ, 灰輪	密	平心 敷底	胎土:灰白2.5V7/1 輪:灰黄2.5V7/3	9/12		002-01
54	灰輪陶器	皿	SR10152	口徑 器高 底径	14.1 2.9 6.8 外底:ヨコナガ, ナガ, 赤切痕, 灰輪 内底:ヨコナガ, 灰輪	密	直	胎土:灰白2.5V7/1 輪:灰黄2.5V7/3	口縁部 7/12	口縁:編織 (残存部:コト)	005-02
55	灰輪陶器	蓋	SR10152	口徑 器高	18.5 7.6 外底:ヨコナガ, 灰輪 内底:ヨコナガ, 灰輪	密	直	胎土:灰白2.5V7/1 輪:灰黄2.5V7/3	口縁部 3/12		005-05
56	鉄製品	釘	SR10152	-	-	-	-	-	6/12		012-08
57	土器器	杯A	SK10215	口徑 器高	13.6 3.1 外底:ヨコナガ, オオユ, ナガ 内底:ヨコナガ, ナガ	密	直	LS-6・黄褐色HV97/4	1段 完整	粘土接合痕	006-06
58	土器器	杯A	SK10215	口徑 器高	14.6 2.6 外底:ヨコナガ, オオユ, ナガ 内底:ヨコナガ, ナガ	密	直	橙5V98/6	口縁部 2/12		008-07
59	鉄製品	釘	SK10215	-	-	-	-	-	6/12		006-08
60	土器器	皿A	SK10225	口徑 器高	12.3 1.3 外底:ヨコナガ, オオユ, ナガ 内底:ヨコナガ, ナガ	密	直	橙7.5V96/6	口縁部 1/12		010-02
61	土器器	皿A	SK10225	口徑 器高	21.7 13.6 外底:ヨコナガ, オオユ, ナガ 内底:ヨコナガ, ナガ	密	直	橙5V96/6	口縁部 1/12		009-06
62	土器器	杯A	SK10225	口徑 器高	13.6 2.6 外底:ヨコナガ, ナガ 内底:ヨコナガ, ナガ	密	直	浅黄褐色5V98/4	口縁部 2/12		015-05
63	土器器	杯A	SK10225	口徑 器高	15.3 2.3 外底:ヨコナガ, オオユ, ナガ 内底:ヨコナガ, ナガ	密	直	橙5V96/6	口縁部 1/12		015-04
64	土器器	覆A	SK10225	口徑 器高	18.5 5.7 外底:ヨコナガ, ハク 内底:ヨコナガ, ナガ	密	直	浅黄褐色HV98/3	口縁部 1/12		010-03
65	土器器	杯A	SK10225	口徑 器高	15.5 3.7 外底:ヨコナガ, オオユ, ナガ 内底:ヨコナガ, ナガ	密	直	浅黄褐色HV98/3	口縁部 3/12	粘土接合痕	009-01
66	金属製品	銅器?	SK10227	長さ 幅 高さ	3.8 2.3 1.9 銅	-	-	-	-	表面付書? 重3:37.79g	014-04
67	土器器	小皿	SR10154	口徑 器高	10.2 1.9 外底:ヨコナガ, オオユ, ナガ 内底:ヨコナガ, ナガ	密	直	浅黄褐色HV98/4	口縁部 4/12		010-09
68	土器器	台付鉢	SR10154	口徑 器高 底径	22.7 8.2 13.0 外底:ヨコナガ, オオユ, ナガ, 胎付高台 内底:ヨコナガ, ナガ, オオユ	密	直	浅黄褐色HV98/3	底部 9/12	粘土接合痕	013-01
69	土器器	覆A	SR10154	口徑 器高	15.0 19.3 外底:ヨコナガ, ハク, ナガ, ナギ 内底:ヨコナガ, ナガ	密	直	LS-6・HR7.5V97/4	口縁部 4/12	外面:埋付書	013-02
70	白磁	瓶	SR10154	口徑 器高	15.6 8.2 外底:無胎 内底:無胎	密	直	灰白5V98/1	口縁部 1/12		012-06
71	灰輪陶器	瓶	SR10298	口徑 器高	7.6 1.9 外底:ヨコナガ, 胎付高台, 赤切痕 内底:ヨコナガ	密	直	黄褐色浅黄褐色HV98/3 輪:黄色K37	底部 3/12	1センチあり	013-03
72	陶器	瓶	SR10298	口徑 器高	7.9 4.7 外底:ヨコナガ, 胎付高台, 赤切痕 内底:ヨコナガ	密	直	灰黄2.5V7/2	底部 3/12		009-05
73	陶器	蓋	SK10298	口徑 器高	6.5 3.3 外底:ヨコナガ, 無胎 内底:ヨコナガ, 無胎	密	直	黒3L5/1	口縁部 2/12	自然跡?	009-04
74	土器器	皿A	q13 P5	口徑 器高	11.8 11.2 外底:ヨコナガ, オオユ, ナガ 内底:ヨコナガ, ナガ	密	直	浅黄褐色HV98/4	口縁部 3/12		011-04
75	土器器	皿A	s14 P1	口徑 器高	11.2 1.9 外底:ヨコナガ, オオユ, ナガ 内底:ヨコナガ, ナガ	密	直	LS-6・黄褐色HV97/3	口縁部 2/12	粘土接合痕	012-01
76	土器器	杯A	r9 P40	口徑 器高 底径	13.8 2.7 6.4 外底:ヨコナガ, オオユ, ナガ 内底:ヨコナガ, ナガ	密	直	LS-6・HR5V96/6	口縁部 5/12		015-01
77	土器器	台付蓋	s13 P5	口徑 器高 底径	8.0 2.6 6.3 外底:ヨコナガ, 胎付高台, ナガ 内底:ヨコナガ, ナガ	密	直	浅黄褐色HV98/4	口縁部 5/12		011-08
78	ロウ 土器器	台付蓋	台付蓋	口徑 器高 底径	10.8 2.7 6.4 外底:ヨコナガ, 胎付高台, 赤切痕 内底:ヨコナガ	密	直	LS-6・HR7.5V97/4	底部 10/12		010-01
79	土器器	台付鉢	t15 P1	口徑 器高 底径	15.9 5.3 7.6 外底:ヨコナガ, オオユ, ナガ, 胎付高台, 工具痕 内底:ヨコナガ, ナガ	平心 敷底	直	浅黄褐色7.5V98/3	口縁部 5/12		012-05
80	土器器	三足蓋?	台付蓋	幅 器高 底径	3.4 5.9 外底:オオユ, ナガ	密	直	-	-	器底 粘土接合痕	013-04
81	石製品	磨鉢	r21 P12	径 高さ	4.7 1.4 外底:研磨, 穿孔	-	-	-	1段 完整		012-07

第II-4表 第167次調査 遺物観察表(2)

り、建替えの可能性も考えられる。一方、調査区南半部では小規模な建物が集中して確認される。S B 10165は、第152次調査で確認されているS B 9739やS B 9743と東西方向で並ぶ位置にある。齋宮Ⅱ-1～2期のある段階で柳原区画は、区画を南北に二分し、南半部には四面庇建物や三面庇建物など3棟の大型建物を配し、「ニワ」的空間を有する儀礼的空間が、北半部には小規模な建物が規則的に配置されていたことが判明している。S B 10165はこの段階に北半部で規則的に配置される建物群を構成する1棟と考えられる。

齋宮Ⅱ-3～4期になると、掘立柱建物11棟となる。建物方向もN1～4°Wと変動が見られる。掘立柱建物は調査区の北半部と南半部に分かれ、調査区中央部は希薄となる。S B 10160は5間×2間の東西建物で、S B 10159の柱穴とほぼ重複することから建替えと考えられるが、これらの北側に位置するS B 10154も同規模の建物であり、時期も後続することから、一連の建物の可能性が考えられる。この時期には柳原区画の各所に5間×2間の東西建物が建てられているが、今回の調査区北半や南半部でも5間×2間の建物が重複して確認されており、柳原区画ではこの時期に5間×2間の東西建物がある程度のグループで配置されていた可能性も考えられよう。このほか、調査区北端で確認されたS B 10153は、梁行部分が溝持ちになる可能性が考えられる。溝持ち建物は、齋宮跡でこれまで齋宮Ⅰ-2期～Ⅱ-2期までのものが11例が確認されており、方格地割内では主に北東部に分布する¹²⁾。S B 10153も、こうした建物に類する可能性が考えられる。

また、S K 10230およびr18-P2からは碗の内外面に陰刻文が施された緑釉陶器が出土している。9世紀前葉の内外面に陰刻文が施された精良なつくりの緑釉陶器は、第9-1・83・109・124・133・135次調査などで出土しており、鍛冶山西区画や西加座南区画で多く確認されているが、齋宮跡ではまだ極めて限定された場所での出土にとどまっている。今回柳原区画でもこうした緑釉陶器が出土したことは、同区画の性格を反映したものであろう。

齋宮Ⅲ期になると、掘立柱建物は3棟と減少するものの、土坑は増加している。建物方向はN4～6°

Wと大きく振るようになる。

柳原区画北部を調査した第152・157次調査でも齋宮Ⅲ-2期以降建物が減少する傾向が確認されている。ただし、齋宮Ⅲ期においてもS B 10154のように5間×2間の規模を持つものが見られ、またS B 10169・10170も東西5間の規模になる可能性が高い。このように齋宮Ⅲ期にまで比較的大型の建物が数多く見られる点もまた、柳原区画の大きな特徴であると言えよう。

[註]

- (1)藤沢貞祐「山茶園研究の現状と課題」『研究紀要』第3号、三重県埋蔵文化財センター、1994
- (2)倉田直純「齋宮跡で確認の所謂「布版」・「溝もち」掘立柱建物について」『齋宮歴史博物館 研究紀要 二十』齋宮歴史博物館、2011



調査区全景(北から)



調査区全景(南西から)

写真図版Ⅱ-2 第167次調査 遺構(2)



SB 10154 (西から)



SB 10154 柱穴 (r13-P17) 土器出土状況 (東から)



SB 10165 (西から)



SB 10159・10160 (西から)

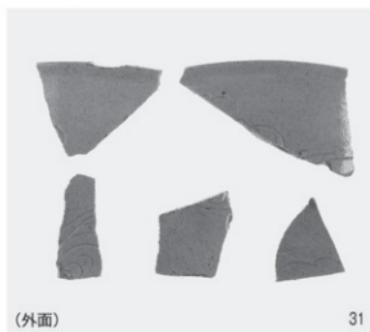
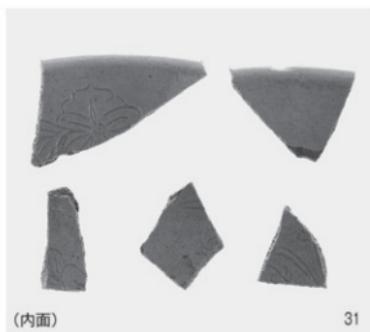
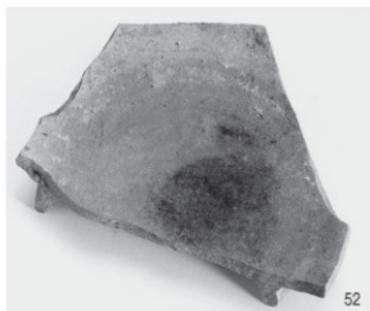


SB 10152 柱穴 (s13-P9) 土器出土状況 (東から)



SE 10210 (南から)





Ⅲ 第168次調査 (6AR10 下園東地区)

1 はじめに

第168次調査区は、史跡東部に位置する方格地割の北部、下園東区画に位置している。下園東区画では、これまで第8・10・10・18-1・18-2・23・47・129・166次調査が行われており、平安時代の掘立柱建物や区画東辺の道路が確認されている。柳原区画の北端を調査した第156次調査では、下園東区画南辺道路の南側溝を確認しており、今回の調査は、この道路の北側溝および下園東区画南東部の遺構状況を確認する目的で実施した。

調査は平成22年7月20日から平成22年8月30日まで実施し、調査面積は239㎡であった。

2 地形と層位

調査区は標高9.8～9.9m程度の平坦地であり、現況は畑地である。調査区の西側では約1mの段差を持った低地部が広がっている。この低地部では、平成21年度に第166次調査が行われており、土取りによって地形が大規模に改変され、遺構が削平されていることが確認されているが、もともと浅い谷状地形が存在していたことも判明している。

基本層位は、耕作土の下に黒褐色砂質土の包含層が約0.1m、その下に黒色シルトのいわゆる黒ボク層が約0.1m堆積し、表土下0.5～0.6mで黒褐色シルトもしくは灰白色粘土層を確認した。遺構は、黒ボク層上面で検出を試みたが、遺構の判別が困難であったため、灰白色粘土層上面で遺構を確認した。

3 遺構

この調査では、奈良時代末から近世までの掘立柱建物6棟、溝3条、土坑6基を確認した。

(1) 斎宮Ⅰ-4～Ⅱ-1期の遺構

SB10241 調査区北端で確認した桁行5間×梁行2間と考えられる東西棟で、建物方向はN4°Wを測る。南側柱列のみを確認しており、北半は調査区外へ展開する。柱間は、桁行2.4m。柱堀形は一辺約0.8～0.9mの隅丸方形を呈する。土器器葉や志摩

式製塩土器の破片が僅かに出土しているのみで、詳しい時期決定はできないが、遺構の重複関係からSB10242やSK10247に先行するものであり、Ⅱ-1～2期に相当するものと考えられる。

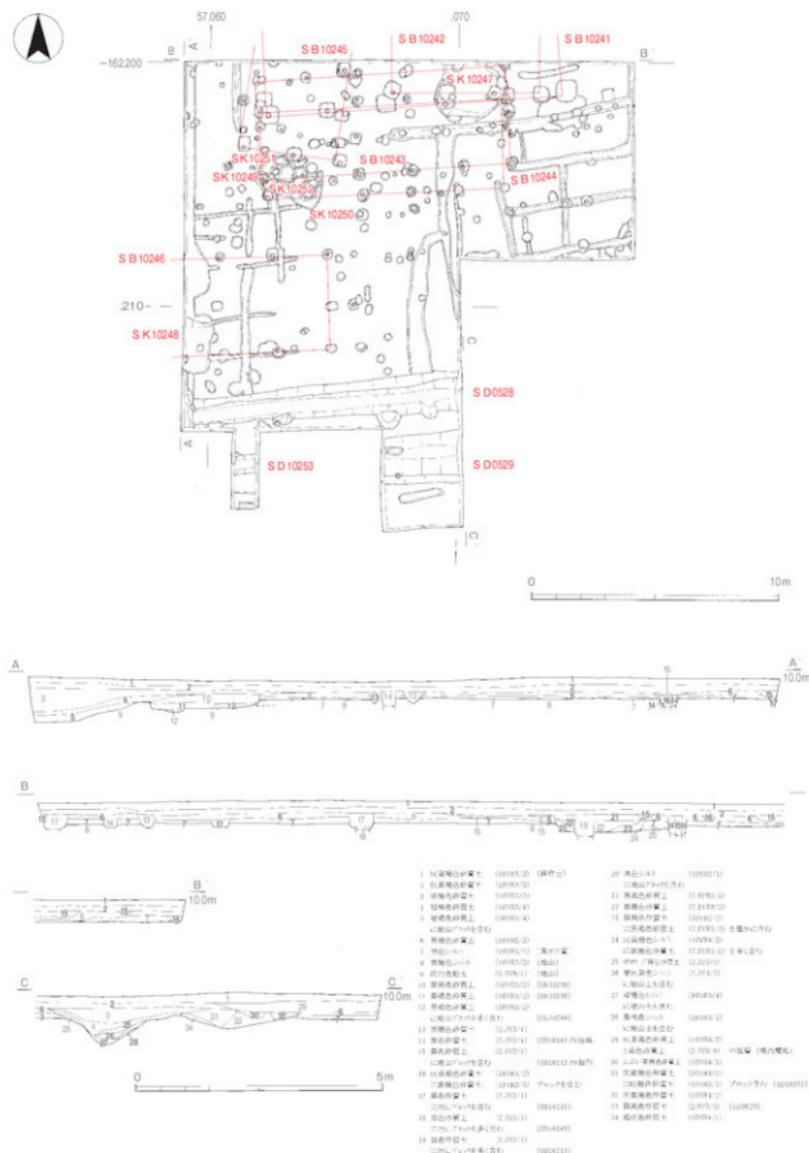
SK10248 調査区南西部で確認された土坑で、南北2.2m、深さ0.2mを測る方形の堅穴状土坑で、西半部は調査区外に展開する。遺構の北半部で土器が集中して出土している。出土遺物は土師器杯(5～9)・皿(10～13)・椀(14)・甕(15～18)・鍋(19～21)、須恵器杯(22)が出土している。出土遺物より、斎宮Ⅱ-1期に属するものと考えられる。

SK10250 調査区北西部に位置し、長辺約1.8m×短辺1.3m、深さ0.3mの楕円形を呈する土坑である。土師器杯(1～3)が出土しており、斎宮Ⅰ-4～Ⅱ-1期に相当する。重複するSK10249の底では、SK10250を含めてSK10251・10252を確認しているが、これらは、遺物から見て二つの土坑が重複していた可能性がある。

SK10251 SK10249の底部で確認された土坑で、



第Ⅲ-1図 第168次調査 グリッド図 (1:400)



第三一二図 第168次調査 遺構平面図(1:200)・土層断面図(1:100)

長辺1.6m×短辺1.0mの楕円形を呈する土坑である。暗文を施す土師器皿(4)のほか、土師器甕、須恵器甕が出土している。

SD0529 調査区南端部に位置する東西溝で、溝方向は概ねE4°Nであった。上部はSD10253など後世の溝によって削平を受けており、溝の底部で黒褐色埋土の溝が幅1mほど残っていた。土師器高杯・把手付甕、須恵器甕の小片しか出土しておらず詳しい時期は不明だが、埋土の状況より、斎宮Ⅰ-4～Ⅱ-1期に属する可能性が高い。第10次調査区に続き、東西区画道路の北側溝にあたと考えられる。

(2) 斎宮Ⅱ-2～3期の遺構

SB10242 調査区北端で東西に3間分確認した建物である。建物方向はN0°Wで、柱間は桁行20mを測る。柱間形は一辺約0.7mの隅丸方形を呈する。土師器皿(59)・甕が出土しており、斎宮Ⅱ-2～3期に属するものと考えられる。

SK10247 調査区北端で確認した土坑で、東西3.0m×南北2.8m、深さ0.2mを測るが、北側は調査区外に展開する。黒褐色の埋土が堆積し、土坑の東半部で土器が集中して出土している。重複関係からS

B10241・10242よりも新しく、SB10244よりも古い。土師器皿(23～25・27)・杯(26・28～30・41・42・48)・椀(31～40・43～47)・甕(49～53)・鍋(54)、須恵器甕(57)、灰釉陶器椀(55・56)・壺(58)、志摩式製塩土器などが出土している。斎宮Ⅱ-2～3期に属するものと考えられる。

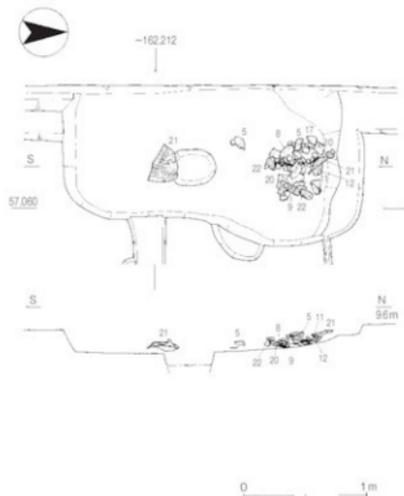
SK10249 調査区北西部に位置するSK10250と重複する土坑で、長径2.9m×短径約1.7mの不正形を呈する。土師器杯(60～64)・皿(65)・高杯(66)・盤(67)・甕(68)・蓋(69)、須恵器杯蓋(70～72)が出土しており、斎宮Ⅱ-2期に相当する。

SK10252 SK10249の底部で確認した土坑で、一連の土坑である可能性がある。土師器皿、須恵器杯・壺などが出土している。

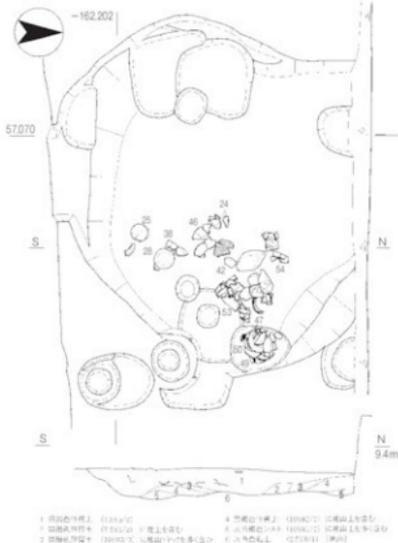
(3) 斎宮Ⅱ-3～4期の遺構

SB10243 調査区北部に所在する桁行5間×梁行2間の東西棟で、柱間は桁行・梁行とも2.0mを測る。建物軸は、N4°Wである。遺構の重複関係より、SK10247より後出することから、斎宮Ⅱ-3～4期に属するものと考えられる。

SB10245 調査区北西部に所在する桁行2間以上



第三-3図 第168次調査
SK 10248 土器出土状況図 (1:40)



第三-4図 第168次調査
SK 10247 土器出土状況図 (1:40)

遺構名	調査時 遺構名	ピット番号	時期	規模	柱間寸法 (m)	主軸	方位 (N規準)	備考
		※()はグリッド番号		間(m)×間(m)				
SB 10241	建物1	(p1)P6/(q1)P6/(r1)P12/(s1)P2	Ⅱ-1~2	5(12.0)×2?(-)	(桁行) 2.4 (梁行) -	東西	N4° W	SB10242・SK10247より古
SB 10242	建物2	(q3)P3/(r1)P8・P11/(s1)P5	Ⅱ-2~3	3(6.0)×2?(-)	(桁行) 2.0 (梁行) -	東西	N0° W	SK10247より新
SB 10243	建物3	(p1)P4・P8・P14/(q1)P9・P15・/ (r1)P13・P14/(p2)P7/(q2)P5・P7・P8/(r2)P4・P5・P9	Ⅱ 3~4	5(10.0)×2(4.0)	(桁行) 2.0 (梁行) 2.0	東西	N4° W	SK10247より新
SB 10244	建物5	(p1)P10・P16・P17/(q1)P5・P11/(r1)P3・P5・P9/(p2)P3・P6/(q2)P2・P9/(r2)P8・P10	Ⅱ	5(9.5)×2(3.8)	(桁行) 1.9 (梁行) 1.9	東西	N3° W	SK10247より新
SB 10245	建物4	(p1)P1・P5・P9/(q1)P7・P8/(q2)P4	Ⅱ 3~4?	2以上(-)×2(4.0)	(桁行) 1.8 (梁行) 2.0	南北	N8° E	SK10249より新
SB 10246	建物6	(q3)P1	Ⅱ	2以上(-)×2(4.0)	(桁行) 2.2 (梁行) 1.8・2.2	東西	N3° W	SK10248より新

Ⅲ-1表 第168次調査 堀立柱建物一覧表

遺構名	調査時 遺構名	グリッド	時期	出土遺物	備考
SK 10247	土坑1	r1	Ⅱ-2~3	土師器皿・杯・碗・把手付甕・鍋、須恵器甕、 灰釉陶器碗・壺、志摩式製塩土器、釘?	SB10244より古 SB10241・10242より新
SK 10248	土坑3	o3-o4	Ⅱ-1	土師器皿・杯・甕・鍋、須恵器杯	SB10246より古
SK 10249	土坑4	p1-p2	Ⅱ-2	土師器皿・杯・高杯・盤・甕、須恵器杯・杯蓋、 灰釉陶器蓋	SK10248・10250~10252より新
SK 10250	土坑5	p2	I-4~Ⅱ-1	土師器杯	SK10249より古
SK 10251	土坑6	p1-p2	I-4~Ⅱ-1	土師器皿・甕、須恵器甕	SK10249より古
SK 10252	土坑7	p2	Ⅱ-2	土師器皿、須恵器杯・壺	SK10249より古
SD 0528	溝1	o1-r4	近世	土師器鍋、須恵器杯、近世陶器	概ねE6° N
SD 0529	溝21	p5-r4	I-4~Ⅱ-1?	土師器高杯・把手付甕、須恵器甕	東西区両道路北側溝 SD10253より古
SD 10253	溝19	p5-r4	Ⅱ	土師器甕、陶器片	SD0529より新

Ⅲ-2表 第168次調査 遺構一覧表

× 梁行 2 間の南北棟で、北半部は調査区外に展開する。柱間は桁行 1.8m × 梁行 2.0m を測り、建物軸は N 8° E。柱断面は一辺 0.4 ~ 0.6m 程度の方形もしくは長方形を呈する。SK10249 に後出することから、斎宮 II - 3 ~ 4 期に属するものと考えられる。

(4) その他の時期の遺構

SB10244 SB10243 に重複する桁行 5 間 × 梁行 2 間の東西棟で、建物軸は N 3° W。柱間は桁行 1.9m × 梁行 1.9m を測る。SK10247 より後出することから、斎宮 II - 3 期以降のものであるが、ここでは 2 期の遺構としておく。

SB10246 調査区南西部に所在する桁行 3 間以上 × 梁行 2 間の東西棟で、西半部は調査区外に展開する。柱間は桁行 2.2m × 梁行 1.8 ~ 2.2m を測り、建物軸は N 3° W。SK10248 に後出し、斎宮 II 期に属するものと考えられる。

SD0528 調査区南部、SD0529 の北側に位置する東西溝で、幅 1.3 ~ 1.7m を測り、溝方向は概ね E 6° N である。埋土は暗灰黄色シルトで、天目茶碗などの陶器も出土している。第 10 次調査では鎌倉時代としているが、近世まで下るものと考えられる。

SD10253 SD0529 に重複する溝で、幅 0.8m を測る。埋土は灰黄褐色を呈し、埋土には土師器甕や陶器片を含む。斎宮 II 期頃の遺構と考えられる。

4 遺物

(1) 斎宮 I - 4 ~ II - 1 期の遺物

SK10250 出土遺物 (1 ~ 3) いずれも土師器杯 A で、外面体部下半にはケズリが施される。2 は外面にミガキ調整が、3 は内面に放射状暗文および螺旋状暗文が施される。斎宮 I - 4 期のものである。

SK10251 出土遺物 (4) 土師器皿 A。外面体部下半にはケズリが、内面底部には螺旋状暗文が施され

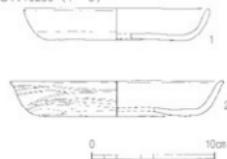
る。斎宮 I - 4 期のものである。

SK10248 出土遺物 (5 ~ 22) 5 ~ 9 は土師器杯 A で、外面体部下半に指頭圧痕が見られる。10 ~ 13 は土師器皿 A で、体部外面下半にケズリが施される。12 は外面底部に「木」状の刻書が見られる。13 の内面底部には墨痕が残るが、判読は不明である。14 は土師器椀で、内面に放射状暗文と螺旋状暗文が施される。15・16 は土師器甕 A。15 は外面のハケメがやや粗い。17 は土師器甕 B で外面に把手の痕跡が残る。18 は土師器甕 C。19 ~ 21 は土師器鍋。20・21 は把手が付く土師器鍋 B である。22 は須恵器杯 A で、外面底部に「上大□」の墨書が認められる。三文字目は「六」にも見え、「宮」であろうか。この遺構から出土した遺物は、主に斎宮 II - 1 期のものである。

(2) 斎宮 II - 2 ~ 3 期の遺物

SK10247 出土遺物 (23 ~ 58) 23 ~ 25・27 は土師器皿 A。24 は底部が窪む。27 は内面に煤が付着している。26・28 ~ 30・42・48 は土師器杯 A。26 は口縁端部に油煙が、30 は外面口縁部に粘土接合痕が残る。48 は底面に焼成後穿孔が見られる。31 ~ 40・43 ~ 47 は土師器椀 A。34・35・37 には外面に粘土接合痕が残る。31 は口縁端部が外に大きく開いている。44 は歪みが大きく、口縁部が屈曲する。46 は外面下半にケズリが施され、内面に格子状暗文および螺旋状暗文が施される。47 は外面下半に指頭圧痕および粘土接合痕が見られる。内面には放射状暗文および螺旋状暗文が施される。41 は土師器杯 G で、いわゆる「いなか風椀」と呼ばれるもの。器壁はやや厚く、口縁端部は丸い。外面に粘土接合痕が残る。49 ~ 52 は土師器甕 A。50 は強く火を受け変色している。53 は土師器甕 C。54 は把手の付く土師器鍋 B である。55・56 は灰軸陶器椀。58 は灰軸陶器壺。底部には糸切り痕が残る。斎宮 II - 2 期のものであ

SK10250 (1~3)

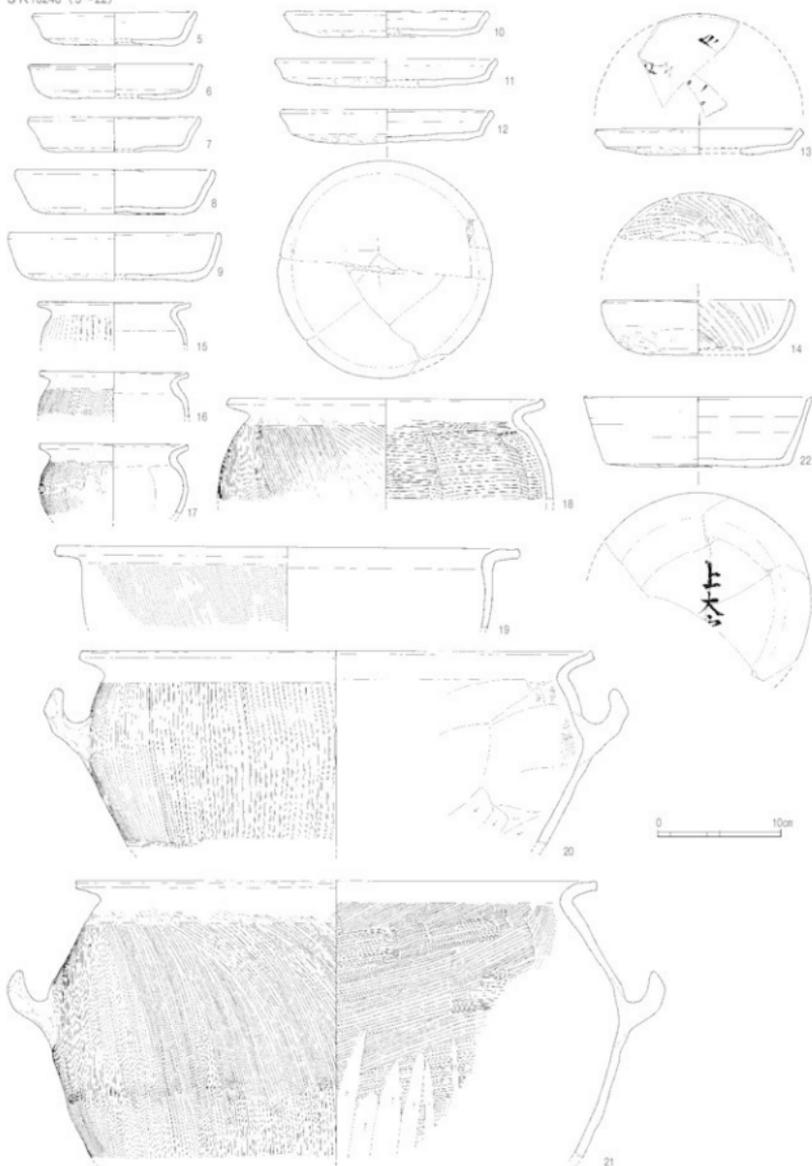


SK10251 (4)



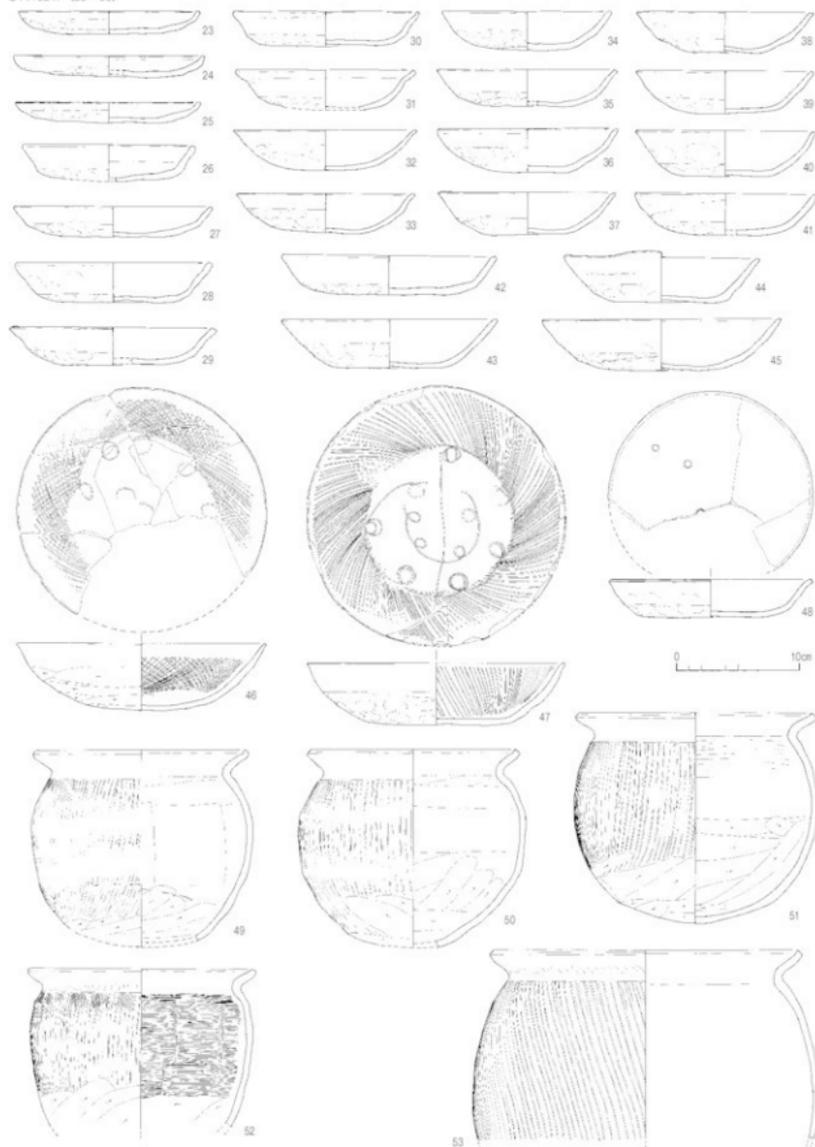
第Ⅲ-5 図 第 168 次調査 出土遺物実測図① (1 : 4)

SK10248 (5~22)



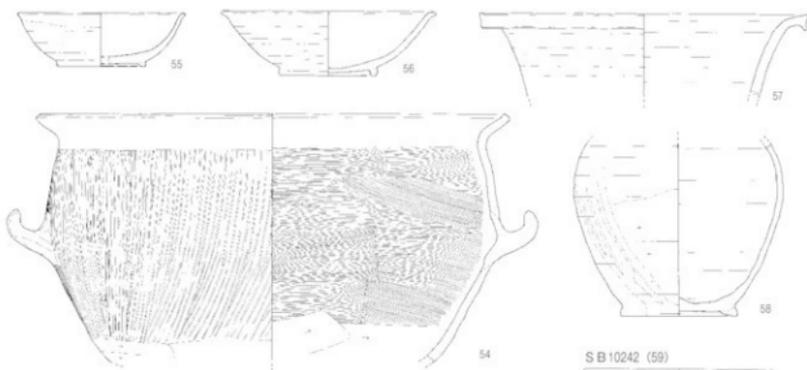
第三-6図 第168次調査 出土遺物実測図②(1:4)

SK10247 (23~53)



第Ⅲ-7図 第168次調査 出土遺物実測図③(1:4)

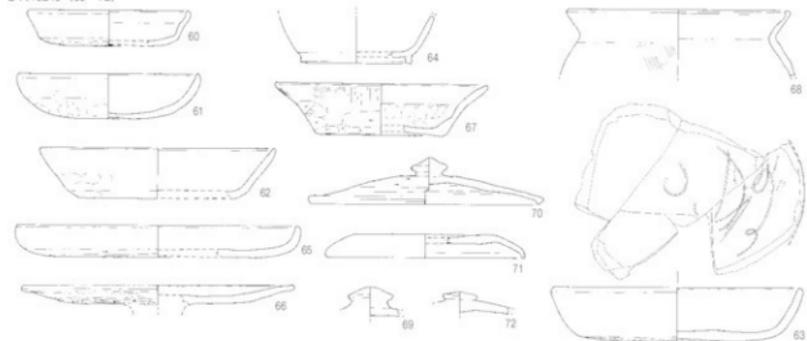
SK10247 (54~58)



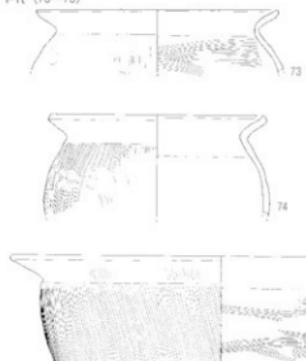
SB10242 (59)



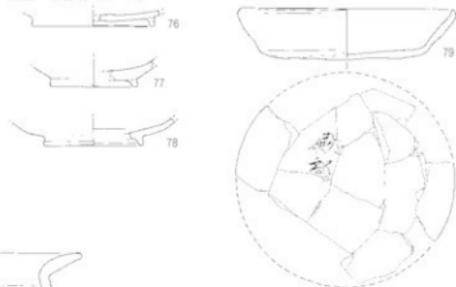
SK10249 (60~72)



Pit (73~75)



表土・包含層 (76~79)



第三-8図 第168次調査 出土遺物実測図④(1:4)

る。

SK10249出土遺物(60～72) 60・62・63は土師器杯A。63の内面底部には螺旋状暗文が施される。61は土師器杯G。64は土師器杯Bで、貼付高台が見られる。65は土師器皿Aで、外面底部にケズリが施される。66は土師器高杯。杯部外面にケズリが施される。67は土師器盤Aで、外面にはケズリ、内面には指頭圧痕が見られる。68土師器甕Aで、外面は摩滅が激しく、ハケメが僅かに残る。69は土師器杯蓋。70～72は須恵器蓋で、71は摘部が欠損している。斎宮Ⅱ-2～3期のものが大半を占めるが、63・65のように下部の遺構のものも混入している。

(3)その他の遺物

Pit出土遺物(73～75) 73・74は土師器甕Aで、74は外面に煤が付着する。75は土師器鍋A。

表土・包含層出土遺物(76～79) 76～78は緑釉陶器碗。79は土師器杯A。外面体部下半に指頭圧痕があり、外部底面には「殿部」の墨書が見られる。この墨書土器は斎宮Ⅱ-1期のものと考えられる。

5 まとめ

今回の調査は、下園東区画と柳原区画を画する東西区画道路の北側溝を確認することを目的としている。調査区南端で確認したSD0529は、出土遺物からは詳しい時期が決定できないものの、溝の位置や埋土の状況から、方格地割造営期に遡る可能性が考えられる。周辺の調査で確認された東西道路は、側溝の外側で測ると50尺(14.8m)となり、路面幅は10～12mとなることが判明している。今回の調査で検出したSD0529と第156次調査で確認した区画道路南側溝SD9871との間隔は、溝の内側間で約11.8mとなることから、遺物が出土していないものの区画道路の北側溝と推定できよう。

このほか、掘立柱建物は6棟確認している。調査区北端で確認したSB10241は斎宮Ⅱ-1～2期と考えられるものであり、北側で行われた第18-2次調査で確認されている平安前期のSB0930もSB10241と23.7m(約80尺)の間隔をあけて柱筋をほぼ揃えている。東隣する西加座北区画で確認された寮庫とされる5間×2間の東西建物群と対応する位置にあり、下園東区画においても同様の建物群が存在

する可能性が考えられる。

遺物では「殿部」と書かれた墨書土器が目玉される。「殿部」は斎宮寮に置かれた十二の司のひとつで、湯沐や燈燭、清掃、舗設などの職務を担ったと考えられている。「延喜斎宮式」の新嘗祭条では、「殿部」が水槽類や灯明道具を準備し、年料としてもこれらの類のものが計上されていることから、斎王の入浴や灯りに関する事も司っていたと思われる。また、官司名墨書土器は、方格地割の中央部の西加座南区画周辺で多く出土しており、特に東加座北①区画で行われた第57次調査では「殿司」「殿」と墨書された土器が出土している。今回の調査では、このほか「上大□」と書かれた土器も出土しており、区画の性格を考える上で重要な資料と言える。

【参考文献】

- ・大田藤史「斎宮跡方格地割に関する二・三の試論」『斎宮歴史博物館 研究紀要十七』斎宮歴史博物館、2008
- ・『明和町史 斎宮編』明和町、2005

番号	器種	器形	地区 遺構	法量 (cm)	調整・技法の特徴	胎土	焼成	色調	残存度	備考	登録 番号
1	土師器	杯A	SK02050	口径 14.8 器高 2.6	外面:ココナダ, ケズリ 内面:ココナダ	精良	不具	外面:増7.SY36/8 内面:増5Y36/8	口縁部 2/12	器面に磨着しい	014-04
2	土師器	杯A	SK02050	口径 17.0 器高 2.9	外面:ココナダ, ハウシガキ, ケズリ 内面:ココナダ	密	良	外面:増7.SY36 内面:増5Y36/6	口縁部 3/12		014-02
3	土師器	杯A	SK02050	口径 15.8 器高 3.1	外面:ココナダ, ケズリ 内面:ココナダ, 放射状・螺旋状模文	密	良	明赤黄5Y35/6	口縁部 3/12		014-03
4	土師器	皿A	SK02051	口径 22.4 器高 2.7	外面:ココナダ, ケズリ 内面:ココナダ, 螺旋状模文	精良	良	増7.SY37/6	口縁部 4/12		014-05
5	土師器	杯A	SK02048	口径 13.1 器高 2.8	外面:ココナダ, オオニ後ナダ 内面:ココナダ	密	やや 不具	外面:増7.SY37/6 内面:増5Y36/8	口縁部 2/12	器面に磨着しい	001-05
6	土師器	杯A	SK02048	口径 13.7 器高 2.4	外面:ココナダ, オオニ後ナダ 内面:ココナダ	密	良	増5Y36/6	口縁部 2/12	結土接合痕	016-02
7	土師器	杯A	SK02048	口径 13.6 器高 2.8	外面:ココナダ, オオニ後ナダ 内面:ココナダ	精良	良	外面:明赤黄610Y37/6 内面:増5Y36/8	口縁部 5/12		001-06
8	土師器	杯A	SK02048	口径 15.8 器高 3.6	外面:ココナダ, オオニ後ナダ 内面:ココナダ	密	良	外面:増7.SY37/6 内面:灰黄緑10Y35/2	口縁部 5/12	外底面に黒票	001-02
9	土師器	杯A	SK02048	口径 16.8 器高 3.8	外面:ココナダ, オオニ後ナダ 内面:ココナダ	密	良	増5Y36/8	口縁部 5/12		001-03
10	土師器	皿A	SK02048	口径 16.1 器高 2.1	外面:ココナダ, オオニ後ナダ 内面:ココナダ	密	良	増5Y36/8	口縁部 3/12		010-02
11	土師器	皿A	SK02048	口径 17.6 器高 2.3	外面:ココナダ, オオニ後ナダ 内面:ココナダ	精良	良	増5Y36/6	口縁部 1/12		010-03
12	土師器	皿A	SK02048	口径 16.8 器高 2.8	外面:ココナダ, オオニ後ナダ 内面:ココナダ	密	やや 不具	増5Y36/8	口縁部 3/12	外面底部に磨着 (水)	010-01
13	土師器	皿A	SK02048	口径 16.4 器高 2.1	外面:ココナダ, オオニ後ナダ 内面:ココナダ	密	良	外面:赤い・黄緑10Y37/3 内面:増5Y36/8	口縁部 2/12	内面底部に黒票	010-04
14	土師器	椀A	SK02048	口径 14.9 器高 4.5	外面:ココナダ, ケズリ 内面:ココナダ, 放射状・螺旋状模文	精良	良	増5Y36/6	口縁部 4/12		010-05
15	土師器	甕A	SK02048	口径 12.1 器高 3.7	外面:ココナダ, ハウシ 内面:ココナダ, オオニ	密	良	赤い・黄緑10Y37/3	口縁部 2/12	内外面に磨着痕	017-04
16	土師器	甕A	SK02048	口径 11.8 器高 3.6	外面:ココナダ, ハウシ 内面:ココナダ, ナダ	密	良	赤い・黄緑10Y37/3	口縁部 2/12		016-03
17	土師器	甕B	SK02048	口径 11.8 器高 5.7	外面:ココナダ, ハウシ 内面:ココナダ, 板ナダ	密	良	外面:赤い・黄7.SY36/4 内面:灰黄緑10Y38/4	口縁部 2/12	外面にスチ付着	012-03
18	土師器	甕C	SK02048	口径 25.0 器高 8.2	外面:ココナダ, ハウシ 内面:ココナダ, ハウシ	密	良	赤い・黄緑10Y37/4	口縁部 3/12		012-02
19	土師器	甕A	SK02048	口径 37.0 器高 6.5	外面:ココナダ, ハウシ 内面:ココナダ, ナダ	密	良	増7.SY37/6	口縁部 1/12		016-01
20	土師器	甕B	SK02048	口径 41.0 器高 16.0	外面:ココナダ, ハウシ, オオニ後ナダ 内面:ココナダ, 板ナダ, ハウシ, ケズリ	密	良	外面:赤い・黄7.SY37/4 内面:増5Y36/2	口縁部 1/12		012-01
21	土師器	甕B	SK02048	口径 41.6 器高 22.7	外面:ココナダ, ハウシ, オオニ後ナダ 内面:ココナダ, ハウシ, ケズリ	密	良	増10Y37/4	口縁部 4/12		011-01
22	須恵器	杯A	SK02048	口径 18.2 器高 5.7	外面:ロクロナダ, ケズリ 内面:ロクロナダ	密	良	灰白5Y7/1	全体 6/12	外面底部に黒票 「土人」	001-01
23	土師器	皿A	SK02047	口径 14.3 器高 19.9	外面:ココナダ, オオニ後ナダ 内面:ココナダ	密	良	灰黄緑10Y38/4 ~増7.SY37/6	口縁部 1/12	変形	003-05
24	土師器	皿A	SK02047	口径 13.2 器高 1.8	外面:ココナダ, オオニ後ナダ 内面:ココナダ	密	良	増5Y36/6	全体 11/12		003-06
25	土師器	皿A	SK02047	口径 14.6 器高 1.7	外面:ココナダ, オオニ後ナダ 内面:ココナダ	密	良	増7.SY37/6	口縁部 10/12	器面に磨着しい	006-04
26	土師器	杯A	SK02047	口径 13.6 器高 3.0	外面:ココナダ, オオニ後ナダ 内面:ココナダ	密	良	増5Y36/8	全体 10/12	口縁部に磨着痕	009-06
27	土師器	皿A	SK02047	口径 15.7 器高 2.5	外面:ココナダ, オオニ後ナダ 内面:ココナダ	密	良	外面:明赤黄610Y37/6 内面:明赤黄6Y35/6	全体 9/12	内面にスチ付着	006-02
28	土師器	杯A	SK02047	口径 15.5 器高 3.3	外面:ココナダ, オオニ後ナダ 内面:ココナダ	密	良	外面:赤い・黄7.SY35/3 内面:黄緑2.5Y4/1	全体 10/12	内底面に黒票	009-07
29	土師器	杯A	SK02047	口径 16.1 器高 3.1	外面:ココナダ, オオニ後ナダ 内面:ココナダ	密	良	外面:灰黄緑10Y36/2 内面:赤い・黄緑10Y37/4	全体 10/12		007-02
30	土師器	杯A	SK02047	口径 14.9 器高 2.8	外面:ココナダ, オオニ後ナダ 内面:ココナダ	精良	良	増5Y36/6	全体 9/12	結土接合痕	001-04
31	土師器	椀A	SK02047	口径 14.2 器高 3.2	外面:ココナダ, オオニ後ナダ 内面:ココナダ	やや 不具	良	外面:赤い・黄緑10Y37/4	全体 10/12		009-05
32	土師器	椀A	SK02047	口径 14.6 器高 3.3	外面:ココナダ, オオニ後ナダ 内面:ココナダ	密	やや 不具	外面:増5Y36/8 内面:赤い・黄7.SY36/3	口縁部 5/12	器面磨耗	003-04
33	土師器	椀A	SK02047	口径 14.2 器高 3.3	外面:ココナダ, オオニ後ナダ 内面:ココナダ	密	良	増5Y36/6	口縁部 6/12		003-03
34	土師器	椀A	SK02047	口径 13.4 器高 3.2	外面:ココナダ, オオニ後ナダ 内面:ココナダ	密	良	増5Y36/6	全体 11/12	結土接合痕	006-05
35	土師器	椀A	SK02047	口径 14.2 器高 3.5	外面:ココナダ, オオニ後ナダ 内面:ココナダ	密	良	外面:赤い・黄7.SY36/4 内面:赤い・黄7.SY35/3	口縁部 5/12	結土接合痕	004-05
36	土師器	椀A	SK02047	口径 14.4 器高 3.6	外面:ココナダ, オオニ後ナダ 内面:ココナダ	密	良	増5Y36/6	全体 10/12		006-03
37	土師器	椀A	SK02047	口径 14.0 器高 3.5	外面:ココナダ, オオニ後ナダ 内面:ココナダ	密	良	増7.SY37/6	全体 10/12	外面底部に黒票 結土接合痕	007-06
38	土師器	椀A	SK02047	口径 13.9 器高 3.3	外面:ココナダ, オオニ後ナダ 内面:ココナダ	密	やや 不具	外面:増7.SY37/6 内面:赤い・黄7.SY37/4	口縁部 5/12		007-03
39	土師器	椀A	SK02047	口径 14.0 器高 3.5	外面:ココナダ, オオニ後ナダ 内面:ココナダ	密	良	外面:灰黄緑10Y38/4 内面:5Y4/1	全体 10/12	内底面に黒票	007-05
40	土師器	椀A	SK02047	口径 14.2 器高 3.7	外面:ココナダ, オオニ後ナダ 内面:ココナダ	密	良	外面:増7.SY36/6 内面:増5Y36/6	全体 11/12		007-04
41	土師器	杯G	SK02047	口径 14.4 器高 3.4	外面:ココナダ, オオニ後ナダ 内面:ココナダ	密	良	外面:赤い・黄7.SY36/4 内面:増7.SY37/6	口縁部 5/12	結土接合痕	004-03

第三ー3表 第168次調査 遺物観察表(1)

番号	器種	器形	地区遺構	法量(cm)	調整・技法の特徴	胎土	焼成	色調	残存度	備考	登録番号
42	上彫器	杯A	SK10247	口径 17.0 底径 3.2 内面:ロコナデ	外面:ロコナデ、オオセ後ナデ 内面:ロコナデ	密	良	外面:灰白10Y88/2 内面:黄褐7.5Y88/4	口縁部 5/12		004-06
43	上彫器	碗A	SK10247	口径 17.1 底径 4.0 内面:ロコナデ	外面:ロコナデ、オオセ後ナデ 内面:ロコナデ	密	良	外面:黄褐色10Y86/6 内面:橙7.5Y86/6	口縁部 3/12		005-02
44	上彫器	碗A	SK10247	口径 15.6 底径 4.2 内面:ロコナデ	外面:ロコナデ、オオセ後ナデ 内面:ロコナデ	密	良	外面:にじみ黄褐10Y87/4 内面:橙7.5Y86/6	口縁部 9/12	口縁部歪み	009-08
45	上彫器	碗A	SK10247	口径 19.0 底径 4.2 内面:ロコナデ	外面:ロコナデ、オオセ後ナデ 内面:ロコナデ	密	良	外面:橙7.5Y86/6 内面:にじみ黄7.5Y85/3	口縁部 3/12	粘土接合痕	005-03
46	上彫器	碗A	SK10247	口径 19.0 底径 5.1 内面:ロコナデ	外面:ロコナデ、オオセ後ナデ 内面:ロコナデ、放射状・螺旋状焼文	密	良	橙7.5Y87/6	全体 8/12		008-01
47	上彫器	碗A	SK10247	口径 16.0 底径 3.1 内面:ロコナデ	外面:ロコナデ、ハク、ケズリ 内面:ロコナデ、板ナデ、ケズリ	やや粗	良	橙7.5Y87/6	完形	粘土接合痕	008-02
48	上彫器	杯A	SK10247	口径 16.8 底径 17.8 内径 13.8	外面:ロコナデ、ハク、ケズリ 内面:ロコナデ、板ナデ、ケズリ	密	良	外面:橙7.5Y87/6 内面:灰黄褐10Y85/2	口縁部 7/12	外面に埋付着 粘土接合痕	004-01
49	上彫器	羹A	SK10247	口径 16.5 底径 18.4 内径 16.1	外面:ロコナデ、ハク、ケズリ 内面:ロコナデ、板ナデ、ケズリ	密	良	外面:にじみ黄褐10Y87/4 内面:にじみ黄褐10Y87/4	全体 8/12	外面被熱変色	004-02
51	上彫器	羹A	SK10247	口径 18.3 底径 17.2	外面:ロコナデ、ハク、ケズリ 内面:ロコナデ、ハク後ナデ、ケズリ	密	良	外面:にじみ黄褐10Y87/4 内面:黒黒2.5Y3/1	口縁部 4/12		003-02
52	上彫器	羹A	SK10247	口径 17.8 底径 18.0 内径 13.0	外面:ロコナデ、ハク、ケズリ 内面:ロコナデ、ハク、ケズリ	密	良	外面:暗灰黄2.5Y5/2 内面:にじみ黄褐10Y87/3	口縁部 5/12	外面に埋付着	003-01
53	上彫器	羹C	SK10247	口径 24.5 底径 15.5	外面:ロコナデ、ハク 内面:ロコナデ、ナデ	微密	良	外面:浅黄褐7.5Y88/4 内面:浅黄褐10Y88/4	口縁部 4/12	埋付着	006-01
54	上彫器	鉢B	SK10247	口径 37.4 底径 4.4 底径 7.0	外面:ロコナデ、ハク、オオセ、ケズリ 内面:ロコナデ、ハク、オオセ、ケズリ	密	良	外面:浅黄褐10Y88/4 内面:橙7.5Y87/6	口縁部 2/12		005-01
55	足輪 脚部	碗	SK10247	口径 13.2 底径 4.4 底径 7.0	外面:ロコナデ、彫付高台 内面:ロコナデ	密	良	胎土:灰白12.5Y8/1 輪:オリーブ黄5Y6/3	高台部 5/12		009-03
56	足輪 脚部	碗	SK10247	口径 16.3 底径 5.2 底径 7.6	外面:ロコナデ、ケズリ、彫付高台 内面:ロコナデ	密	良	胎土:灰白12.5Y8/1 輪:灰白5Y7/2	口縁部 3/12		009-02
57	須恵器	羹A	SK10247	口径 26.3 底径 6.8 内面:ロコナデ	外面:ロコナデ 内面:ロコナデ	密	良	外面:黄灰2.5Y4/ 内面:黄灰2.5Y6/1	口縁部 2/12		009-04
58	足輪 脚部	長頸瓶	SK10247	口径 9.8 底径 16.0 底径 14.2	外面:ロコナデ、ケズリ、彫付高台 内面:ロコナデ	密	良	胎土:灰白12.5Y8/1 輪:浅黄5Y7/3	全体 6/12	底部未切痕	009-01
59	上彫器	皿	SB10242	口径 14.9 底径 1.5	外面:ロコナデ、オオセ後ナデ 内面:ロコナデ、ナデ	密	良	橙7.5Y86/6	口縁部 3/12		015-01
60	上彫器	杯A	SK10249	口径 12.8 底径 2.0 内面:ロコナデ	外面:ロコナデ、オオセ後ナデ 内面:ロコナデ	精良	良	橙7.5Y86/6	口縁部 4/12		013-07
61	上彫器	杯G	SK10249	口径 14.4 底径 3.3 内面:ロコナデ	外面:ロコナデ、オオセ後ナデ 内面:ロコナデ	密	良	浅黄褐10Y88/3	口縁部 4/12		014-01
62	上彫器	杯A	SK10249	口径 18.7 底径 4.1 内面:ロコナデ	外面:ロコナデ、ケズリ 内面:ロコナデ	密	良	橙7.5Y87/6	口縁部 2/12		016-05
63	上彫器	杯A	SK10249	口径 19.8 底径 4.4 内面:ロコナデ	外面:ロコナデ、ケズリ 内面:ロコナデ、放射状・螺旋状焼文	精良	良	外面:橙7.5Y86/6 内面:にじみ黄7.5Y85/4	全体 6/12		013-06
64	上彫器	杯B	SK10249	口径 8.6 底径 3.0 内面:ロコナデ	外面:ロコナデ、彫付高台 内面:ロコナデ	精良	良	外面:橙7.5Y87/6 内面:橙7.5Y86/6	高台 2/12		013-05
65	上彫器	皿A	SK10249	口径 22.5 底径 2.8 内面:ロコナデ	外面:ロコナデ、ケズリ 内面:ロコナデ	密	不良	外面:橙7.5Y87/6 内面:にじみ黄7.5Y86/4	口縁部 3/12	器面割傷あり	013-04
66	上彫器	高杯	SK10249	口径 21.7 底径 1.6 内面:ロコナデ	外面:ロコナデ、ケズリ、焼文 内面:ロコナデ	精良	不良	外面:橙7.5Y86/6 内面:橙7.5Y86/8	口縁部 4/12	器面割傷あり	013-03
67	上彫器	羹A	SK10249	口径 16.9 底径 4.2 内面:ロコナデ	外面:ロコナデ、ケズリ 内面:ロコナデ	密	良	外面:橙7.5Y87/6 内面:灰7.5Y85/1	口縁部 4/12		013-02
68	上彫器	羹A	SK10249	口径 17.4 底径 5.4 内面:ロコナデ	外面:ロコナデ、ハク 内面:ロコナデ、ナデ	密	良	にじみ黄7.5Y86/4	口縁部 2/12		016-06
69	上彫器	杯蓋	SK10249	口径 2.4 底径 2.4 内面:ロコナデ	外面:ナデ、ロコナデ 内面:ナデ	密	良	橙7.5Y86/6	小片		017-01
70	須恵器	蓋	SK10249	口径 18.4 底径 3.8 内面:ロコナデ	外面:ケズリ、ロコナデ 内面:ロコナデ	密	良	黄灰2.5Y6/1	全体 8/12		013-01
71	須恵器	蓋	SK10249	口径 15.8 底径 1.9 内面:ロコナデ	外面:ロコナデ、ケズリ 内面:ロコナデ、ナデ	密	良	黄灰2.5Y8/1	口縁部 2/12		016-04
72	須恵器	蓋	SK10249	口径 18.4 底径 1.5 内面:ロコナデ	外面:ナデ、ロコナデ 内面:ロコナデ	密	良	黄灰2.5Y8/1	小片		017-02
73	上彫器	羹A	p02 Pn10	口径 19.2 底径 4.9 内面:ロコナデ	外面:ロコナデ、ハク 内面:ロコナデ、ハク	密	良	灰白10Y88/2	口縁部 3/12		015-04
74	上彫器	羹A	p01 Pn10	口径 17.0 底径 8.4 内面:ロコナデ	外面:ロコナデ、ハク 内面:ロコナデ、オオセ	密	良	浅黄褐10Y88/3	口縁部 5/12	外面に埋付着	015-02
75	上彫器	羹A	p02 Pn4	口径 33.6 底径 8.8 内面:ロコナデ	外面:ロコナデ、ハク 内面:ロコナデ、ハク	密	良	にじみ黄7.5Y87/4	口縁部 1/12	粘土接合痕 器面割傷あり	015-03
76	足輪 脚部	瓶	p01 表土	口径 1.3 底径 1.3 内面:ロコナデ	外面:ロコナデ、糸切痕 内面:ロコナデ	密	良	黄土緑36	底部 4/12	トーン染あり	017-03
77	足輪 脚部	瓶	p02 表土	口径 6.8 底径 2.4 内面:ロコナデ	外面:ロコナデ、彫付高台、糸切痕 内面:ロコナデ	密	良	草色834	底部 1/12		017-06
78	足輪 脚部	瓶	p01 包含層	口径 7.8 底径 2.2 内面:ロコナデ	外面:ロコナデ 内面:ロコナデ	密	良	黄灰系990	底部 1/12		017-05
79	上彫器	杯A	q03 包含層	口径 17.1 底径 4.2 内面:ロコナデ	外面:ロコナデ、オオセ後ナデ 内面:ロコナデ	精良	良	橙7.5Y86/6	全体 8/12	外面底部裏書 (彫部)	002-01

第三-4表 第168次調査 遺物観察表(2)

写真図版Ⅲ-1 第168次調査 遺構(1)



調査区全景 (北から)



S B 10241 ~ 10245 (西から)



S K10248 土器出土状況(北から)



S K10248 完掘状況(東から)



S K10247 土器出土状況 (西から)



S K10247 完掘状況 (南から)



S K10249 ~ 10252 (南から)



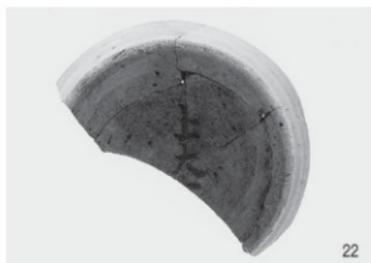
S D 10254・10255 (西から)

写真図版Ⅲ-5 第168次調査 遺物(1)





写真図版Ⅲ-6 第168次調査 遺物(3)



Ⅳ 第169次調査 (6AQ11 御館地区)

1 はじめに

第169次調査区は、史跡東部に位置する方格地割の西部、御館区画の南西部に位置している。御館区画では、これまで第8-9・19・55・94・128-5・129次調査が行われており、古代伊勢道や平安時代初期～後期の掘立柱建物、方格地割の東西道路を確認している。今回の調査区は、方格地割の東西区画道路の確認を目的として調査を実施した。

調査は平成22年9月27日から平成22年10月25日まで実施し、調査面積は71㎡である。

2 地形と層位

調査区は標高約113mの平坦地であるが、以前は宅地であり造成のための盛土が行われていたものと思われる。

基本層位は、砕石および近代の盛土が行われ、その下に黒褐色砂質土が0.2～0.4m堆積しており、近世以降の造成土と考えられる。地表下約0.8mで明褐色粘土の地山面を確認した。

3 遺構および遺物

調査区では、ほぼ全面で地表下約0.8mまで攪乱を受けており、特に調査区中央部では約1.0mまで攪乱を受けていた。遺構は、地山面で溝やピットの痕跡をわずかに確認したのみである。

攪乱土坑埋土には、土師器培烙(1・2)のほか、近世陶磁器類、近世瓦などが多数含まれており、これらの攪乱は近世後期以降のものと考えられる。

S D10260は、調査区中央の攪乱底面で確認した溝で、深さ約0.1mが残っており、埋土は黒褐色砂質土であった。溝方位はE19.5°Nを測る。土師器や須恵器片がわずかに出土しているが、時期は不明。

遺物は、攪乱土坑から土師器培烙や陶磁器類、瓦などが出土しているが、奈良～平安時代の遺物は、土師器片や須恵器片がわずかに出土したのみである。土師器培烙(1・2)は調査区中央部の攪乱土坑底部から出土したもので、直径36.5～37.7cmを測る。体部下半は内外面ともヘラケズリが施され、器壁は0.2～0.3cmと薄い。口縁部には煤が付着していた。伊藤裕偉氏の南伊勢系土器編年⁽¹⁾の第4段階以降に相当するものと考えられる。

4 まとめ

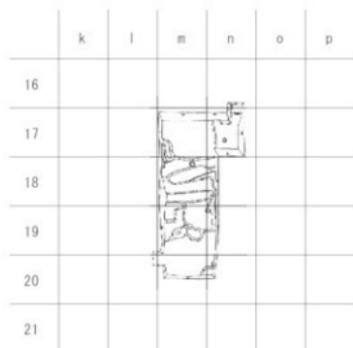
御館区画南辺の区画道路は、第47調査や第128-5・164次調査で側溝が確認されており、北側溝は今回の調査区北半部へと続いている。しかし、今回の調査では、北側溝推定部分から遺構は確認できなかった。第128-5次調査で確認された北側溝の底面は、標高10.8mであり、今回の調査区では、浅い部分でも10.8m前後まで攪乱を受けていたことから、北側溝はすでに削平を受けていたものと考えられる。南側溝および御館区画西辺の区画道路側溝については、調査区外に存在するものと考えられる。攪乱土坑については、御館区画の西部では第8-9・94・129次調査でも確認されており、粘土探掘が広範囲で行われていたものと考えられよう。

【注】

(1) 伊藤裕偉「伊勢の中世煮海用土器から東海を見る」『調と装そのデザイン』東海考古学フォーラム尾張大会実行委員会、1996

番号	器種	器形	地区遺構	出量 (cm)	調整・技法の特徴	胎土	焼成	色調	残存度	備考	登録番号	
1	土師器	培烙	819 攪乱土坑	口径 残高	36.5 5.3	外面：ヨコナガ、ナガ、ケズリ 内面：ヨコナガ、ナガ、ケズリ	泥	良	焼S100/6	口縁部 5/12	内外面深行着	001-01
2	土師器	培烙	819 攪乱土坑	口径 残高	37.7 7.4	外面：ヨコナガ、ナガ、ケズリ 内面：ヨコナガ、ナガ、ケズリ	泥	良	焼S100/6	口縁部 6/12	内外面深行着	001-02

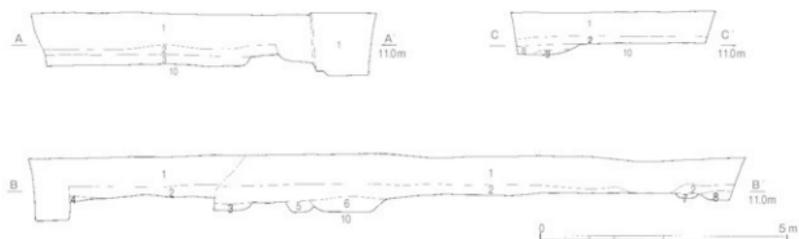
第Ⅳ-1表 第169次調査 遺物観察表



第IV-1図 第169次調査 グリッド図 (1:400)

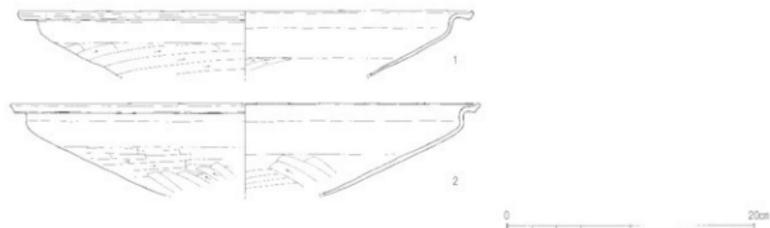


第IV-2図 第169次調査 遺構平面図 (1:200)



- | | | | | | | | | | |
|------|--------------------------|--------------------------|--------------------------|--------------------------|--------------------------|------------------------|--------------------------|--------------------------|--------------------------|
| 1 葺上 | 2 漆地色砂粘土 (2.193/2) (6.1) | 3 漆地色砂粘土 (2.193/1) (5.6) | 4 漆地色砂粘土 (2.193/2) (5.1) | 5 漆地色砂粘土 (1.915/2) (5.1) | 6 漆地色砂粘土 (2.193/1) (7.6) | 7 埋藏土層 (2.193/1) (5.1) | 8 漆地色砂粘土 (2.193/1) (5.6) | 9 漆地色砂粘土 (2.193/1) (5.1) | 10 埋藏土層上 (2.193/1) (5.6) |
|------|--------------------------|--------------------------|--------------------------|--------------------------|--------------------------|------------------------|--------------------------|--------------------------|--------------------------|

第IV-3図 第169次調査 土層断面図 (1:100)



第IV-4図 第169次調査 出土遺物実測図 (1:4)



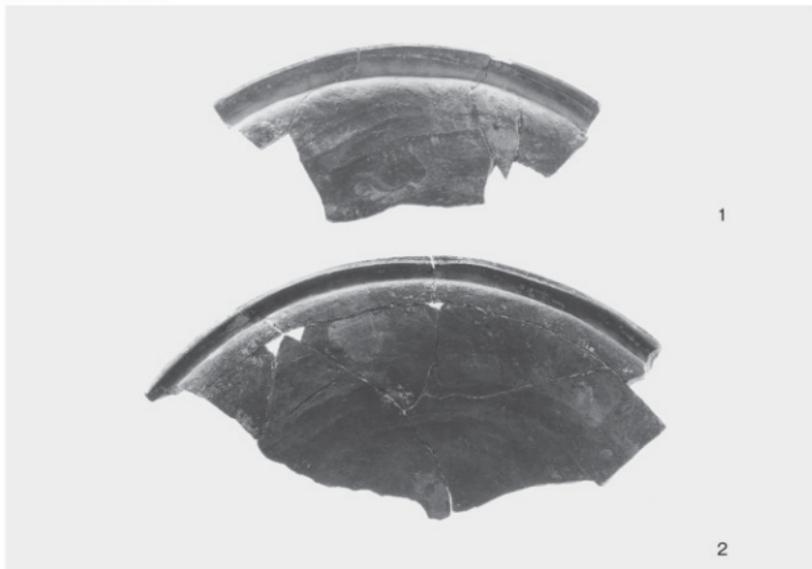
調査区全景 (北から)



調査区全景 (南から)



調査区北半部(西から)



出土遺物

V 第171次調査 (6AR11 牛葉東地区)

1 はじめに

第171次調査区は、史跡東部の方格地割、牛葉東区画の北東隅に位置する。当該区画は、斎王の居所である「内院」に想定されている区画である。牛葉東区画では、これまでに第10・17-1・17-2・103・108・114・151-12・163次調査が行われている。特に近鉄線以北の調査では、平安時代初頭の大規模な掘立柱塼が確認されたほか、平仮名墨書土器を含む多量の土器が出土している。平成21年度に行われた第163次調査は、今回の調査区の東隣にあたり、区画内を細分する平安時代後期の溝を確認し、平仮名墨書土器や陶枕、サイコロ状土製品などが出土している。今回の調査は、この溝の続きを確認し、出土遺物の検討も含めた牛葉東区画の実態解明を目的として実施した。

調査期間は平成22年6月24日から平成22年11月18日までで、調査面積は37㎡である。

2 地形と層位

調査地は標高10.8mの平坦地だが、北隣第159次調査区は9.9～10.4mで、旧地形は北へ向かって緩やかに傾斜し、東西方向の浅い谷となっていたこ

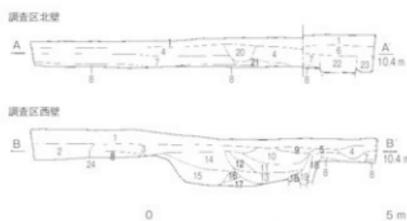
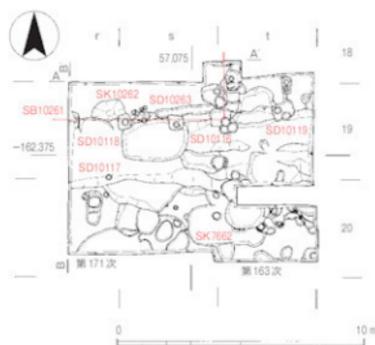
とが確認されている。基本層位は、灰黄褐色砂質土の表土下に、土器を多量に含むにぶい黄褐色砂質土の遺物包含層があり、地表下約0.4～0.5mで、黄褐色粘土の地山面を確認した。調査区南端1mは第114次調査区と重複する。

3 遺構

この調査では、掘立柱建物1棟および溝5条、土坑2基を確認した。

SB10261 調査区北端で確認した桁行3間以上×梁行2間の東西棟と考えられる建物。柱間は桁行2.0mで、建物軸はN0°W。柱掘形は一辺約0.6mの方形を呈し、柱痕跡は直径0.3m前後を測る。ただし、南東隅の柱掘形は長辺0.8m×短辺0.6mの長方形を呈し、その北側の柱掘形も一辺約0.8mであることから、東側柱列は掘形の規模が大きい可能性も考えられる。溝の底部で遺構を検出していることから、SD10118・SK10262よりも古い。土師器杯(1・2)、須恵器杯蓋・甕、灰釉陶器輪などが出土しており、斎宮Ⅱ-3期に相当する。

SD10116 SD10117・10118に重複する溝で、調査区の東部で底部の痕跡が確認されている。土師器小皿(83)・台付皿・甕、白玉石(84)、炭化材が出土



- | | | | |
|-----------|-------|------------|------------|
| 1 黄褐色砂質土 | 21 砂 | 22 赤褐色砂質土 | 23 赤褐色砂質土 |
| 2 黄褐色砂質土 | 24 砂 | 25 赤褐色砂質土 | 26 赤褐色砂質土 |
| 3 赤褐色砂質土 | 27 砂 | 28 赤褐色砂質土 | 29 赤褐色砂質土 |
| 4 赤褐色砂質土 | 30 砂 | 31 赤褐色砂質土 | 32 赤褐色砂質土 |
| 5 赤褐色砂質土 | 33 砂 | 34 赤褐色砂質土 | 35 赤褐色砂質土 |
| 6 赤褐色砂質土 | 36 砂 | 37 赤褐色砂質土 | 38 赤褐色砂質土 |
| 7 赤褐色砂質土 | 39 砂 | 40 赤褐色砂質土 | 41 赤褐色砂質土 |
| 8 赤褐色砂質土 | 42 砂 | 43 赤褐色砂質土 | 44 赤褐色砂質土 |
| 9 赤褐色砂質土 | 45 砂 | 46 赤褐色砂質土 | 47 赤褐色砂質土 |
| 10 赤褐色砂質土 | 48 砂 | 49 赤褐色砂質土 | 50 赤褐色砂質土 |
| 11 赤褐色砂質土 | 51 砂 | 52 赤褐色砂質土 | 53 赤褐色砂質土 |
| 12 赤褐色砂質土 | 54 砂 | 55 赤褐色砂質土 | 56 赤褐色砂質土 |
| 13 赤褐色砂質土 | 57 砂 | 58 赤褐色砂質土 | 59 赤褐色砂質土 |
| 14 赤褐色砂質土 | 60 砂 | 61 赤褐色砂質土 | 62 赤褐色砂質土 |
| 15 赤褐色砂質土 | 63 砂 | 64 赤褐色砂質土 | 65 赤褐色砂質土 |
| 16 赤褐色砂質土 | 66 砂 | 67 赤褐色砂質土 | 68 赤褐色砂質土 |
| 17 赤褐色砂質土 | 69 砂 | 70 赤褐色砂質土 | 71 赤褐色砂質土 |
| 18 赤褐色砂質土 | 72 砂 | 73 赤褐色砂質土 | 74 赤褐色砂質土 |
| 19 赤褐色砂質土 | 75 砂 | 76 赤褐色砂質土 | 77 赤褐色砂質土 |
| 20 赤褐色砂質土 | 78 砂 | 79 赤褐色砂質土 | 80 赤褐色砂質土 |
| 21 赤褐色砂質土 | 81 砂 | 82 赤褐色砂質土 | 83 赤褐色砂質土 |
| 22 赤褐色砂質土 | 84 砂 | 85 赤褐色砂質土 | 86 赤褐色砂質土 |
| 23 赤褐色砂質土 | 87 砂 | 88 赤褐色砂質土 | 89 赤褐色砂質土 |
| 24 赤褐色砂質土 | 90 砂 | 91 赤褐色砂質土 | 92 赤褐色砂質土 |
| 25 赤褐色砂質土 | 93 砂 | 94 赤褐色砂質土 | 95 赤褐色砂質土 |
| 26 赤褐色砂質土 | 96 砂 | 97 赤褐色砂質土 | 98 赤褐色砂質土 |
| 27 赤褐色砂質土 | 99 砂 | 100 赤褐色砂質土 | 101 赤褐色砂質土 |
| 28 赤褐色砂質土 | 102 砂 | 103 赤褐色砂質土 | 104 赤褐色砂質土 |
| 29 赤褐色砂質土 | 105 砂 | 106 赤褐色砂質土 | 107 赤褐色砂質土 |
| 30 赤褐色砂質土 | 108 砂 | 109 赤褐色砂質土 | 110 赤褐色砂質土 |
| 31 赤褐色砂質土 | 111 砂 | 112 赤褐色砂質土 | 113 赤褐色砂質土 |
| 32 赤褐色砂質土 | 114 砂 | 115 赤褐色砂質土 | 116 赤褐色砂質土 |
| 33 赤褐色砂質土 | 117 砂 | 118 赤褐色砂質土 | 119 赤褐色砂質土 |
| 34 赤褐色砂質土 | 120 砂 | 121 赤褐色砂質土 | 122 赤褐色砂質土 |
| 35 赤褐色砂質土 | 123 砂 | 124 赤褐色砂質土 | 125 赤褐色砂質土 |
| 36 赤褐色砂質土 | 126 砂 | 127 赤褐色砂質土 | 128 赤褐色砂質土 |
| 37 赤褐色砂質土 | 129 砂 | 130 赤褐色砂質土 | 131 赤褐色砂質土 |
| 38 赤褐色砂質土 | 132 砂 | 133 赤褐色砂質土 | 134 赤褐色砂質土 |
| 39 赤褐色砂質土 | 135 砂 | 136 赤褐色砂質土 | 137 赤褐色砂質土 |
| 40 赤褐色砂質土 | 138 砂 | 139 赤褐色砂質土 | 140 赤褐色砂質土 |
| 41 赤褐色砂質土 | 141 砂 | 142 赤褐色砂質土 | 143 赤褐色砂質土 |
| 42 赤褐色砂質土 | 144 砂 | 145 赤褐色砂質土 | 146 赤褐色砂質土 |
| 43 赤褐色砂質土 | 147 砂 | 148 赤褐色砂質土 | 149 赤褐色砂質土 |
| 44 赤褐色砂質土 | 150 砂 | 151 赤褐色砂質土 | 152 赤褐色砂質土 |
| 45 赤褐色砂質土 | 153 砂 | 154 赤褐色砂質土 | 155 赤褐色砂質土 |
| 46 赤褐色砂質土 | 156 砂 | 157 赤褐色砂質土 | 158 赤褐色砂質土 |
| 47 赤褐色砂質土 | 159 砂 | 160 赤褐色砂質土 | 161 赤褐色砂質土 |
| 48 赤褐色砂質土 | 162 砂 | 163 赤褐色砂質土 | 164 赤褐色砂質土 |
| 49 赤褐色砂質土 | 165 砂 | 166 赤褐色砂質土 | 167 赤褐色砂質土 |
| 50 赤褐色砂質土 | 168 砂 | 169 赤褐色砂質土 | 170 赤褐色砂質土 |
| 51 赤褐色砂質土 | 171 砂 | 172 赤褐色砂質土 | 173 赤褐色砂質土 |
| 52 赤褐色砂質土 | 174 砂 | 175 赤褐色砂質土 | 176 赤褐色砂質土 |
| 53 赤褐色砂質土 | 177 砂 | 178 赤褐色砂質土 | 179 赤褐色砂質土 |
| 54 赤褐色砂質土 | 180 砂 | 181 赤褐色砂質土 | 182 赤褐色砂質土 |
| 55 赤褐色砂質土 | 183 砂 | 184 赤褐色砂質土 | 185 赤褐色砂質土 |
| 56 赤褐色砂質土 | 186 砂 | 187 赤褐色砂質土 | 188 赤褐色砂質土 |
| 57 赤褐色砂質土 | 189 砂 | 190 赤褐色砂質土 | 191 赤褐色砂質土 |
| 58 赤褐色砂質土 | 192 砂 | 193 赤褐色砂質土 | 194 赤褐色砂質土 |
| 59 赤褐色砂質土 | 195 砂 | 196 赤褐色砂質土 | 197 赤褐色砂質土 |
| 60 赤褐色砂質土 | 198 砂 | 199 赤褐色砂質土 | 200 赤褐色砂質土 |

第V-1図 第171次調査 遺構平面図(1:200)・土層断面図(1:100)

している。平安時代後期の溝の中では、もっとも古く、斎宮Ⅲ-2期に相当する。

SD10117 調査区中央に位置する東西方向の溝で、深さは0.7m。溝の北半がSD10118・10119によって割平を受けるため、幅は不明。溝は土層より上下の2つに大別でき、さらに上半部の検出面直下部分で土器がまもって出土した部分を上層、上半部の下半を中層として捉えた。土器は上・中層を中心に、土師器皿・小皿やロクロ土師器小皿を主体とした大量の遺物(3～47)が出土し、輪羽口(22)や鉄釘(23・47)・鉄滓も出土している。「いろは歌」の書かれた平仮名墨書土器(46)も溝土層から出土している。これら出土遺物の形式から斎宮Ⅲ-3期に相当する。

SD10118 SD10117の北側に重複する溝で、幅1.7m×深さ0.7mを確認した。上層・中層・下層に分けられ、土師器杯や皿を中心とした土器(48～66)が大量に出土している。また、上層からは刀子(67)も出土している。斎宮Ⅲ-3期に相当する。

SD10119 SD10118の上層に位置する溝で、調査区の東端では幅2m、深さ約0.5mの規模を確認したが、西端では幅0.8m、深さ約0.1mと小規模になっており、遺構は調査区の西で終わるものと考えられる。土師器小皿(68～73)・皿(74・75)、陶器碗(76)、墨書土器(77)が出土している。斎宮Ⅲ-3期からそれに後続する時期に相当する。

SD10263 SD10118の北側に位置する溝で、幅0.3m、深さ0.15mを測る。遺構の重複関係からSB10261よりも新しい。土師器小皿(82)・須恵器甕が出土しており、斎宮Ⅲ-2～3期に相当する。

SK7662 調査区南東部に位置する土坑で、南半部は第114次調査で検出されている。長さ3.0m×短径1.7m、深さ約0.15mの隅丸長方形を呈する。土師器杯(81)・皿(80)・台付皿・高杯が出土している。斎宮Ⅲ-3期以降に相当する。

SK10262 調査区北東部に位置する土坑で、長さ1.4m×短径0.8m、深さ0.4mの楕円形を呈する。遺構の重複関係から、SB10261やSD10119よりも新しいと判断される。土師器小皿(78)・皿(79)・台付皿が出土している。斎宮Ⅲ-3期に相当する。

4 遺物

SB10261出土遺物(1・2) ともに土師器杯で、外面体部上半まで指オサエが施され、口縁部は外反している。1は柱掘形から、2は柱痕跡から出土した。斎宮Ⅱ-3～4期に相当する。

SD10117下層出土遺物(3～9) 3～5は土師器杯。4は体部外面下部に指頸圧痕が、5は粘土接合痕が残る。6はいわゆるロクロ土師器小皿で、底部に糸切痕が見られる。7は土師器甕で、口縁部はやや肥厚する。8は無釉の陶器碗(山茶碗)。9は白磁

遺構名	調査時 遺構名	ビット番号		時期	規模		柱間寸法 (m)	主軸	方位 (N標準)	備考
		※()はグリッド番号			間(m)×間(m)	(桁行)2.0 (梁行)-				
SB10261	建物1	(18)P1/(r19)P2/(s19)P1・P2・P3		Ⅱ-3	3以上(-)×2?(-)		(桁行)2.0 (梁行)-	東西	N 0° W	SD10118・10263より古

第V-1表 第171次調査 掘立柱建物一覧表

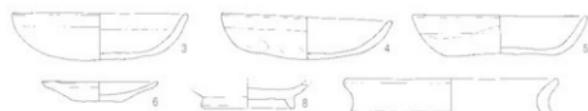
遺構名	調査時 遺構名	グリッド	時期	出土遺物	備考
SD 10117	溝2	r19-t20	Ⅲ-3	土師器杯・皿・台付皿・甕、ロクロ土師器皿、須恵器甕・鉢、灰釉陶器碗、輪羽口、釘	SD10118より古
SD 10118	溝1	r19-t19	Ⅲ-3	土師器皿	SD10119より古
SD 10116	溝4	r19-s19	Ⅲ-2	土師器皿・台杯皿・甕、白玉石、炭	SD10117・10118より古
SD 10119	溝3	r19-t19	Ⅲ-3～	土師器皿・台杯皿・高杯、陶器鉢	SD10117・10118より新
SD 10263	溝5	s19-t19	Ⅲ-2～3	土師器皿、須恵器甕	SB10161より新
SK 7662	土坑2	s20-t20	Ⅲ-3～	土師器杯・皿・台杯皿・高杯	
SK 10262	土坑13	r19-s19	Ⅲ-3	土師器杯・皿・台杯皿	SD10118・10119より新

第V-2表 第171次調査 遺構一覧表

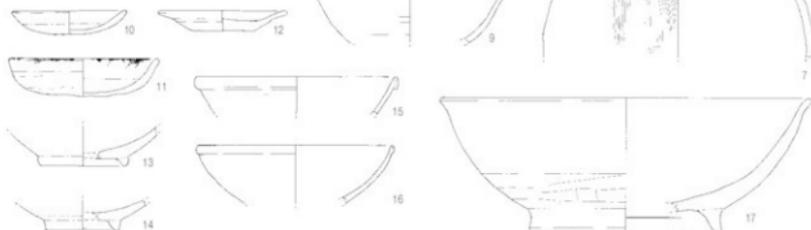
SB10261 (1-2)



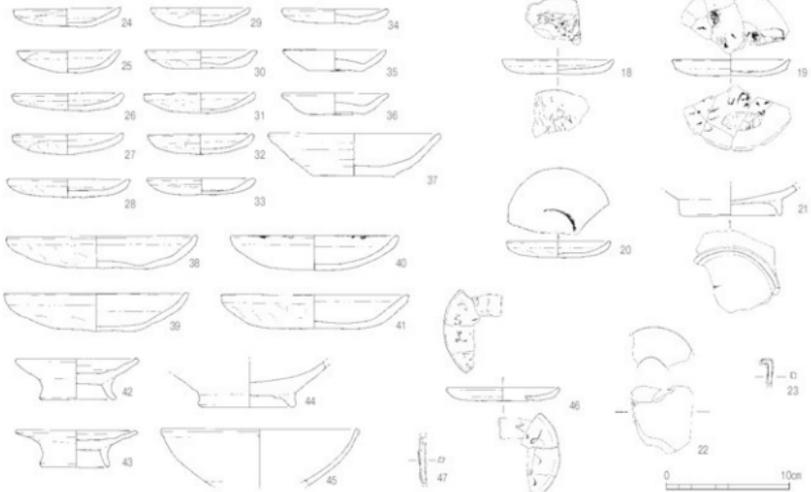
SD10117下層 (3~9)



SD10117中層 (10~23)



SD10117上層 (24~47)

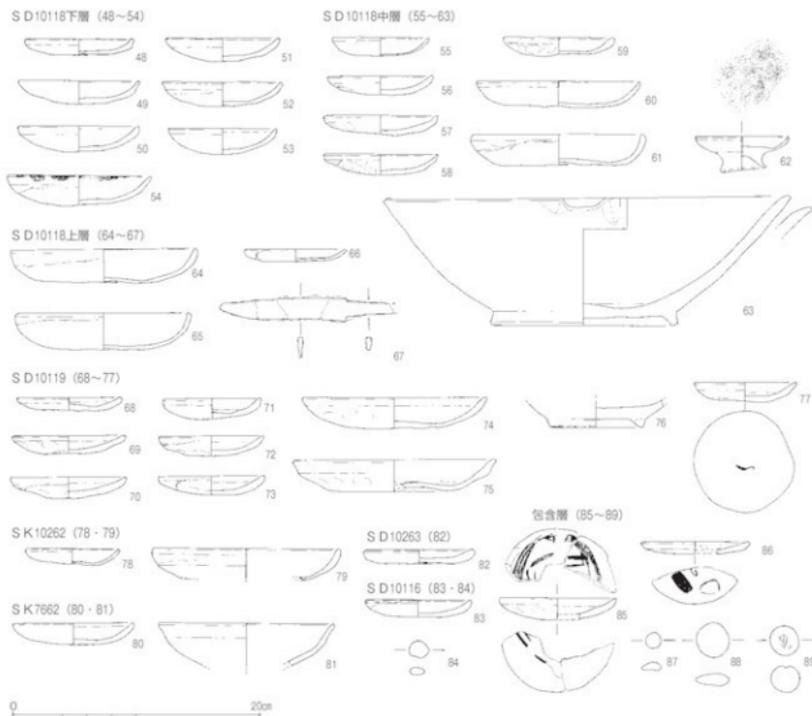


第V-2図 第171次調査 出土遺物実測図① (1:4)

椀で、表面はやや粗い。斎宮Ⅲ-3に相当する。

SD10117中層出土遺物(10~23) 10は土師器小皿。11は土師器杯で、外面体部には粘土接合痕が残り、口縁端部には油煙が激しく付着している。灯明皿として使われたものか。12はロクロ土師器小皿、13はロクロ土師器椀で高台がつく。14~16は白磁椀で、15・16は玉縁状の口縁を持つ。17は陶器鉢で、

底面には糸切痕が残る。外面にはひび割れもあるが、つくりは全体的に丁寧で、内面には使用痕が認められる。18~20は土師器小皿で墨書が見られる。18は内外面とも、細い筆跡の墨書が見られる。内面には「天」とも読める字など多数書かれるが、判読は不明。外面も判読はできないが、平仮名状の文字が多数書かれており、習書と考えられる。19は人面



第V-3図 第171次調査 出土遺物実測図② (1:4)

等の絵画が描かれており、内面には髷もしくは髪
の毛状の線や目・眉とも考えられる線が見られる。外
面は、眉・目・鼻が表現された人面が2つ確認でき
る他、大根状の絵画も見られるが、詳細は不明であ
る。21は陶器碗(山茶碗)で、内面には墨書が、外面
底部には墨書が残る。22は輪羽口で強く被熱して
いる。23は釘の頭部。斎宮Ⅲ-2~3期に相当する。

SD10117上層出土遺物(24~47) 24~33は土師
器小皿。全体的に器壁は厚く、外面には指頭圧痕や
粘土接合痕が見られる。34~36はロクロ土師器小
皿で底部には糸切痕が残る。砂を多く含み、胎土は
やや粗い。37はロクロ土師器杯。全体的に厚手で、
堅く焼き締まる。38~41は土師器皿。40・41は口
縁部に油煙が付着し、灯明皿と考えられる。42・43

はロクロ土師器の付台皿で、外部底面には糸切痕が
見られる。44は陶器の山茶碗。45は白磁碗で、口縁
端部は僅かに肥厚する。46は土師器小皿で、内面
には平仮名で「ぬるをわか」、外面には「つねなら」
と書かれており、いろは歌の一部と考えられる。47
は鉄製釘で、上端がL字状に曲がり、頭部と考えら
れる。これらは、斎宮Ⅲ-3期に相当する。

SD10118下層出土遺物(48~54) 48~53は土師
器小皿。48は平底で、口縁端部がつまみ上げられ、
外面に面を持つ。54は土師器皿で、口縁端部には油煙
が多く付着している。外面には粘土接合痕が見られ、
胎土には砂粒をやや含む。斎宮Ⅲ-3に相当する。

SD10118中層出土遺物(55~63) 55~59は土師
器小皿で、外面には粘土接合痕や指頭圧痕が見られ

番号	品種	品形	地蔵 遺構	法量 (cm)	調整・技法の特徴	粘土	焼成	色調	残存度	備考	登録 番号
1	土師器	杯	SR10281	口徑 残高 13.9 2.8	外面：ナデ、オサニ残ナデ 内面：ナデ	密	良	浅黄緑10YR6/4	口縁部 3/12		001-01
2	土師器	杯	SR10281	口徑 残高 13.0 3.0	外面：ナデ、オサニ残ナデ 内面：ナデ、オサニ残ナデ	密	良	浅黄緑10YR6/3	口縁部 2/12		001-02
3	土師器	杯	SD10117 下層	口徑 残高 14.0 3.8	外面：ナデ、オサニ残ナデ 内面：ナデ	密	良	じ.55・黄緑10YR7/4	口縁部 完形		003-04
4	土師器	杯	SD10117 下層	口徑 残高 13.5 3.8	外面：ナデ、オサニ残ナデ 内面：ナデ	密	良	じ.55・黄緑10YR7/4	口縁部 完形		003-06
5	土師器	杯	SD10117 下層	口徑 残高 13.8 3.5	外面：ナデ、オサニ残ナデ 内面：ナデ	密	良	明黄緑10YR7.6	口縁部 10/12	粘土接合痕	003-05
6	コテロ 土師器	小皿	SD10117 下層	口徑 残高 9.1 1.7	外面：コテロナデ、糸切痕 内面：コテロナデ	密	良	橙7.5YR7.6	口縁部 7/12		003-08
7	土師器	罎	SD10117 下層	口徑 残高 17.0 10.2	外面：ナデ、タテハケ 内面：ナデ	やや 密	密	黄緑10YR6.6	口縁部 2/12		005-02
8	陶器 (山形焼)	碗	SD10117 下層	直径 残高 7.0 2.1	外面：コテロナデ、敷付高台、 糸切痕 内面：コテロナデ	密	良	灰黄2.5Y7/2	底部 完形		003-07
9	白磁	碗	SD10117 下層	口徑 残高 15.8 4.9	外面：コテロナデ、コテロケズリ 内面：コテロナデ	密	良	黄緑・緑灰黄2.5Y5/2 輪：灰13YR6	口縁部 1/12		011-05
10	土師器	小皿	SD10117 中層	口徑 残高 9.8 2.8	外面：ナデ、オサニ残ナデ 内面：ナデ	やや 密	良	灰02.5YR8/2	口縁部 完形		004-009
11	土師器	杯	SD10117 中層	口徑 残高 11.8 3.1	外面：ナデ、オサニ残ナデ 内面：ナデ	密	良	じ.55・黄緑10YR7/4	口縁部 8/12	口縁部内面に曲線 粘土接合痕	004-002
12	コテロ 土師器	小皿	SD10117 中層	口徑 残高 10.0 2.8	外面：コテロナデ、糸切痕 内面：コテロナデ	密	良	橙7.5YR7.6	口縁部 1/12		004-008
13	コテロ 土師器	碗	SD10117 中層	直径 残高 6.6 3.3	外面：コテロナデ、敷付高台、 糸切痕 内面：コテロナデ	密	良	灰白7.5YR8/2	口縁部 3/12		004-007
14	白磁	碗	SD10117 中層	口徑 残高 5.7 2.5	外面：コテロナデ、ケズリ、 敷付高台、糸切痕 内面：コテロナデ	密	良	黄緑・灰白2.5Y7/1 輪：灰07.5Y7/1	底部 1/12		011-07
15	白磁	碗	SD10117 中層	口徑 残高 16.0 3.1	外面：コテロナデ 内面：コテロナデ	密	良	輪：灰07.5Y7/1	口縁部 1/12		013-02
16	白磁	碗	SD10117 中層	口徑 残高 15.6 4.8	外面：コテロナデ、ケズリ、 内面：コテロナデ	密	良	輪：灰05YR/2	口縁部 1/12	内外面に貫入	013-01
17	陶器	鉢	SD10117 中層	口徑 残高 29.4 11.0	外面：コテロナデ、ケズリ、 敷付高台、糸切痕、自然釉 内面：コテロナデ	密	良	外面：RC4/ 内面：黄灰2.5Y7/3	口縁部 4/12		006-01
18	土師器	小皿	SD10117 中層	口徑 残高 8.3 1.3	外面：ナデ、オサニ残ナデ 内面：ナデ	密	良	灰白2.5YR7.2	口縁部 1/12	内外面に墨書 漢字・ひらがなナ	011-02
19	土師器	小皿	SD10117 中層	口徑 残高 9.4 1.3	外面：ナデ、オサニ残ナデ 内面：ナデ	密	良	じ.55・橙7.5YR7/4	口縁部 4/12	内外面に墨書 大面13カ	010-01
20	土師器	小皿	SD10117 中層	口徑 残高 8.1 1.4	外面：ナデ、オサニ残ナデ 内面：ナデ	密	良	浅黄緑10YR6/3	口縁部 5/12	内面底部に墨書	010-02
21	陶器 (山形焼)	碗	SD10117 中層	口徑 残高 3.6 2.6	外面：コテロナデ、敷付高台、 糸切痕 内面：コテロナデ	密	良	浅黄2.5Y7/3	底部 4/12	内面に墨書 外面底部に墨痕	011-04
22	土製品	輪石口	SD10117 中層	残存長 5.2	外面：ナデ	やや 密	密	灰02.5YR8/2	小片	焼熱による変色あり	013-07
23	鉄製品	釘	SD10117 中層	残存長 2.1	—	—	—	—	小片		013-10
24	土師器	小皿	SD10117 上層	口徑 残高 8.3 1.5	外面：ナデ、オサニ残ナデ 内面：ナデ	密	良	じ.55・黄緑10YR7/2	完形	粘土接合痕	004-011
25	土師器	小皿	SD10117 上層	口徑 残高 8.2 1.3	外面：ナデ、オサニ残ナデ 内面：ナデ	密	良	橙5YR7.6	口縁部 完形	粘土接合痕	004-012
26	土師器	小皿	SD10117 上層	口徑 残高 8.7 1.4	外面：ナデ、オサニ残ナデ 内面：ナデ	密	良	橙7.5YR7.6	口縁部 完形	粘土接合痕 底部ワケ線跡	005-03
27	土師器	小皿	SD10117 上層	口徑 残高 8.7 1.7	外面：ナデ、オサニ残ナデ 内面：ナデ	密	良	灰白05YR8/2	完形	粘土接合痕	005-05
28	土師器	小皿	SD10117 上層	口徑 残高 9.6 1.5	外面：ナデ、オサニ残ナデ 内面：ナデ	密	良	浅黄緑7.5YR6.6	口縁部 10/12	粘土接合痕	004-001
29	土師器	小皿	SD10117 上層	口徑 残高 7.8 1.6	外面：ナデ、オサニ残ナデ 内面：ナデ	密	良	浅黄緑10YR6/3	口縁部 11/12	粘土接合痕	004-014
30	土師器	小皿	SD10117 上層	口徑 残高 8.7 1.5	外面：ナデ、オサニ残ナデ 内面：ナデ	密	良	じ.55・黄緑10YR7/2	口縁部 完形		005-06
31	土師器	小皿	SD10117 上層	口徑 残高 8.8 1.6	外面：ナデ、オサニ残ナデ 内面：ナデ	密	良	じ.55・黄緑10YR7/4	完形		004-013
32	土師器	小皿	SD10117 上層	口徑 残高 8.3 1.6	外面：ナデ、オサニ残ナデ 内面：ナデ	密	良	浅黄緑10YR6/4	口縁部 完形	粘土接合痕	004-010
33	土師器	小皿	SD10117 上層	口徑 残高 8.3 1.4	外面：ナデ、オサニ残ナデ 内面：ナデ	密	良	灰白05YR8/2	完形	粘土接合痕	004-015
34	コテロ 土師器	小皿	SD10117 上層	口徑 残高 8.3 1.2	外面：コテロナデ、ナデ、糸切痕 内面：コテロナデ	密	良	橙5YR7.6	口縁部 完形		005-04
35	コテロ 土師器	小皿	SD10117 上層	口徑 残高 8.2 1.7	外面：コテロナデ、糸切痕 内面：コテロナデ	密	良	浅黄緑10YR6/3	口縁部 9/12		004-016
36	コテロ 土師器	小皿	SD10117 上層	口徑 残高 8.3 1.7	外面：コテロナデ、糸切痕 内面：コテロナデ	密	良	じ.55・黄緑10YR6/4	口縁部 4/12		004-006
37	コテロ 土師器	杯	SD10117 上層	口徑 残高 13.5 3.5	外面：コテロナデ、糸切痕 内面：コテロナデ	密	良	黄緑10YR6.6	口縁部 2/12		003-03

第V-3表 第171次調査 遺物観察表(1)

番号	器種	器形	地区 遺構	法量 (cm)	調整・技法の特徴	粘土	構成	色調	残存度	備考	登録 番号	
38	土師器	蓋	SD10117 上層	口径 器高	15.2 2.7	外面：ナデ、オサエ後ナデ 内面：ナデ、ナデ	密	良	浅黄緑10Y8/4	口径部 11/12	粘土接合痕	004-005
39	土師器	蓋	SD10117 上層	口径 器高	14.7 3.1	外面：ナデ、オサエ後ナデ 内面：ナデ、ナデ	密	良	にぶい緑7.5Y8/7	ほぼ 完全		004-004
40	土師器	蓋	SD10117 上層	口径 器高	13.2 2.8	外面：ナデ、オサエ後ナデ 内面：ナデ、ナデ	密	やや 不具	浅黄緑10Y8/4	口径部 5/12	粘土接合痕	004-003
41	土師器	蓋	SD10117 上層	口径 器高	14.9 2.6	外面：ナデ、オサエ後ナデ 内面：ナデ、ナデ	やや 粗	良	浅黄緑10Y8/4	完全	口径部部に割線	003-01
42	ロクロ 土師器	付付瓦	SD10117 上層	口径 器高 底径	9.5 5.3 5.8	外面：ロクロナデ、船付高台、 糸切痕 内面：ロクロナデ	密	良	浅黄緑10Y8/4	口径部 7/12		005-07
43	ロクロ 土師器	付付瓦	SD10117 上層	口径 器高 底径	9.4 3.0 5.1	外面：ロクロナデ、船付高台、 糸切痕 内面：ロクロナデ	密	良	緑7.5Y8/7.6	ほぼ 完全		005-01
44	陶器	甕 (山家焼)	SD10117 上層	口径 器高	7.1 3.8	外面：ロクロナデ、船付高台、 内面：ロクロナデ	密	良	浅黄2.5Y7/3	底部 11/12		003-02
45	白磁	甕	SD10117 上層	口径 器高	15.7 4.6	外面：ロクロナデ、ロクロメグリ 内面：ロクロナデ、輪軸	密	良	黄緑・灰黄2.5Y6/2 輪：灰黄2.5Y7/2	口径部 2/12		011-06
46	土師器	小瓶	SD10117 上層	口径 器高	9.1 1.1	外面：ナデ 内面：ナデ	密	良	浅黄緑10Y8/4	口径部 3/12	黒帯・ひらぶね 内面「めをむかひ」 外面「つばなむら」	012-01
47	鉄製品	釘	SD10117 上層	残存長	3.8	—	—	—	—	—	—	013-09
48	土師器	小瓶	SD10118 下層	口径 器高	8.4 1.3	外面：ナデ、オサエ後ナデ 内面：ナデ、オサエ後ナデ	密	良	浅黄緑10Y8/3	ほぼ 完全		008-10
49	土師器	小瓶	SD10118 下層	口径 器高	9.7 1.9	外面：ナデ、オサエ後ナデ 内面：ナデ、オサエ後ナデ	密	良	灰白10Y8/2	口径部 10/12		008-07
50	土師器	小瓶	SD10118 下層	口径 器高	9.6 2.1	外面：ナデ、オサエ後ナデ 内面：ナデ、オサエ後ナデ	密	良	灰白10Y8/2	ほぼ 完全		008-08
51	土師器	小瓶	SD10118 下層	口径 器高	9.0 1.9	外面：ナデ、オサエ後ナデ 内面：ナデ、オサエ後ナデ	密	良	浅黄緑10Y8/3	ほぼ 完全		008-06
52	土師器	小瓶	SD10118 下層	口径 器高	5.5 2.0	外面：ナデ、オサエ後ナデ 内面：ナデ、オサエ後ナデ	密	良	浅黄2.5Y7/3	ほぼ 完全	粘土接合痕	008-05
53	土師器	小瓶	SD10118 下層	口径 器高	8.6 2.1	外面：ナデ、オサエ後ナデ 内面：ナデ、オサエ後ナデ	密	やや 不具	浅黄2.5Y8/3	ほぼ 完全		008-09
54	土師器	蓋	SD10118 下層	口径 器高	11.4 2.5	外面：ナデ、オサエ後ナデ 内面：ナデ、オサエ後ナデ	やや 不具	やや 不具	黄緑10Y8/6	口径部 6/12	粘土接合痕 口径部に割線	008-04
55	土師器	小瓶	SD10118 中層	口径 器高	7.7 1.5	外面：ナデ、オサエ後ナデ 内面：ナデ、オサエ後ナデ	密	良	浅黄5Y8/4	完全	粘土接合痕	007-02
56	土師器	小瓶	SD10118 中層	口径 器高	8.4 1.5	外面：ナデ、オサエ後ナデ 内面：ナデ、オサエ後ナデ	密	良	緑5Y8/7.8	完全	粘土接合痕	007-05
57	土師器	小瓶	SD10118 中層	口径 器高	9.0 1.5	外面：ナデ、オサエ後ナデ 内面：ナデ、オサエ後ナデ	密	良	外面：浅黄緑10Y8/3 内面：緑5Y8/7.6	ほぼ 完全		007-03
58	土師器	小瓶	SD10118 中層	口径 器高	9.0 1.7	外面：ナデ、オサエ後ナデ 内面：ナデ、オサエ後ナデ	密	良	浅黄緑7.5Y8/8/4	ほぼ 完全	粘土接合痕	007-01
59	土師器	小瓶	SD10118 中層	口径 器高	8.8 1.35	外面：ナデ、オサエ後ナデ 内面：ナデ、オサエ後ナデ	密	良	緑7.5Y8/7.6	ほぼ 完全	粘土接合痕	007-04
60	土師器	蓋	SD10118 中層	口径 器高	13.0 2.15	外面：ナデ、オサエ後ナデ 内面：ナデ、オサエ後ナデ	密	良	浅黄緑10Y8/4	口径部 4/12		007-06
61	土師器	蓋	SD10118 中層	口径 器高	13.5 2.5	外面：ナデ、オサエ後ナデ 内面：ナデ、オサエ後ナデ	密	良	明黄緑10Y8/7.6	ほぼ 完全	粘土接合痕	007-07
62	土師器	付付小瓶	SD10118 中層	口径 器高 底径	7.4 2.75 3.4	外面：ナデ、オサエ後ナデ、 船付高台 内面：ナデ、オサエ後ナデ	密	良	黄緑2.5Y8/4	底部 内面底部に木の葉痕		007-08
63	陶器	片白鉢	SD10118 中層	口径 器高 底径	32.4 10.9 14.1	外面：ナデ、ロクロナデ、メグリ、 船付高台、ナデ 内面：ナデ、ロクロナデ	密	良	浅黄2.5Y7/4	口径部 10/12	筋みあり	009-01
64	土師器	蓋	SD10118 上層	口径 器高	14.8 2.7	外面：ナデ、オサエ後ナデ 内面：ナデ、オサエ後ナデ	密	良	黄緑7.5Y8/7.8	完全	粘土接合痕	008-02
65	土師器	蓋	SD10118 上層	口径 器高	13.6 3.0	外面：ナデ、オサエ後ナデ 内面：ナデ、オサエ後ナデ	密	良	明黄緑10Y8/7.6	完全	粘土接合痕	008-01
66	土師器	小瓶	SD10118 上層	口径 器高	8.0 1.0	外面：ナデ、オサエ後ナデ 内面：ナデ、オサエ後ナデ	密	良	浅黄緑7.5Y8/4~10Y8/3	完全	粘土接合痕	008-03
67	鉄製品	刀子	SD10118 上層	残存長 幅	13.8 1.9	—	—	—	—	—	—	013-08
68	土師器	小瓶	SD10119	口径 器高	8.1 1.1	外面：ナデ、オサエ後ナデ 内面：ナデ	密	良	浅黄緑10Y8/3	ほぼ 完全		002-01
69	土師器	小瓶	SD10119	口径 器高	8.9 1.5	外面：ナデ、オサエ後ナデ 内面：ナデ	密	良	浅黄緑10Y8/4	ほぼ 完全	粘土接合痕	002-06
70	土師器	小瓶	SD10119	口径 器高	9.1 1.2	外面：ナデ、オサエ後ナデ 内面：ナデ	密	良	浅黄緑10Y8/4	完全	粘土接合痕	002-05
71	土師器	小瓶	SD10119	口径 器高	7.6 1.7	外面：ナデ、オサエ後ナデ 内面：ナデ	密	良	緑7.5Y8/7.6	完全		002-03
72	土師器	小瓶	SD10119	口径 器高	8.2 1.6	外面：ナデ、オサエ後ナデ 内面：ナデ	密	良	にぶい黄緑10Y8/7/3	ほぼ 完全	粘土接合痕	002-02
73	土師器	小瓶	SD10119	口径 器高	8.4 1.6	外面：ナデ、オサエ後ナデ 内面：ナデ	密	良	にぶい緑7.5Y8/7/4	ほぼ 完全	粘土接合痕	002-04
74	土師器	蓋	SD10119	口径 器高	14.6 2.5	外面：ナデ、オサエ後ナデ 内面：ナデ	密	良	にぶい緑7.5Y8/7/4	口径部 3/12		002-08
75	土師器	蓋	SD10119	口径 器高	16.9 2.6	外面：ナデ、オサエ後ナデ 内面：ナデ	密	良	にぶい緑7.5Y8/7/4	口径部 3/12	内面底部に葉状割線	002-07

第V-4表 第171次調査 遺物観察表(2)

番号	器種	器形	地区・遺跡	法量 (cm)	特徴・技法の特徴	胎土	焼成	色調	残存度	備考	登録番号
76	陶器	椀(山茶椀)	SD10119	口径器高 7.2 2.3	外面:ロクロナデ、基付高台、赤褐色	赤良	灰黄2.5/7/2	底面 完形	外面底面に粉殻痕		002-09
77	土師器	小皿	SD10119	口径器高 8.9 1.6	外面:ナデ、オサニ後ナデ	赤良	灰黄粉10/8/4	完形	外面底面に墨書		010-03
78	土師器	小皿	SK10262	口径器高 7.35 1.25	外面:ナデ、オサニ後ナデ	赤良	橙5/86/8	口縁部 6/12			001-06
79	土師器	皿	SK10262	口径器高 15.9 2.5	外面:ナデ、オサニ後ナデ	赤 やや良	明黄粉10/7/6	口縁部 3/12	粘土接合痕		001-05
80	土師器	小皿	SK7662	口径器高 9.6 1.8	外面:ナデ、オサニ後ナデ	赤 やや良	黄粉10/7/8	口縁部 6/12			001-04
81	土師器	杯	SK7662	口径器高 14.9 3.5	外面:ナデ、オサニ後ナデ	赤 やや良	黄粉2.5/8/3	口縁部 3/12			001-03
82	土師器	小皿	SD10263	口径器高 8.4 1.15	外面:ナデ、オサニ後ナデ	赤良	灰黄粉10/8/4	口縁部 3/12			001-08
83	土師器	小皿	SD10116	口径器高 8.3 1.4	外面:ナデ、オサニ後ナデ	赤良	LS5・橙7.5/87/4	口縁部 6/12	粘土接合痕		001-07
84	石製品	白玉石	SD10116	径 1.6 0.6	外面:研磨	—	灰白2.5/8/2	完形	基石? 重量1.97g		013-06
85	土師器	小皿	包含層	口径器高 9.2 1.3	外面:ナデ、オサニ後ナデ	赤良	LS5・黄粉10/7/3	口縁部 5/12	内外面に墨書 人面小字		010-04
86	土師器	小皿	①29 包含層	口径器高 8.5 1.0	外面:ナデ、オサニ後ナデ	赤良	灰白10/88/2	口縁部 3/12	外面に墨書 記号?		010-05
87	石製品	白玉石	①29 包含層	径 1.3 0.6	外面:研磨	—	灰白2.5/8/2	完形	基石? 重量1.65g		013-05
88	石製品	白玉石	①19 包含層	径 2.8 1.0	外面:研磨	—	灰白2.5/7~黄灰2.0/7/3	完形	基石? 重量1.93g		013-04
89	土製品	玉	①29 包含層	直径 2.4	外面:ナデ	赤良	黄粉2.5/7/3~黄灰2.0/4/1	ほぼ 完形	重量12.51g		013-03

第V-5表 第171次調査 遺物観察表(3)

る。60・61は土師器皿。62は土師器台付皿で、内面底部に木の葉圧痕が残る。脚部の接合は指頭圧痕や爪痕がはっきりと残り、整形はやや粗雑である。63は陶器の片口鉢。口縁部の1/4毎に輪花が表現され、1つの部分が片口にあたる。内面底部は使用痕が認められる。斎宮Ⅲ-3期に相当する。

SD10118上層出土遺物(64~67) 64・65は土師器皿で、ともに外面に粘土接合痕が残る。66は土師器小皿で、器壁は薄い。67は刀子で、全長13.8cm・幅1.9cmで、ほぼ完形のもの。斎宮Ⅲ-3期に相当する。

SD10119出土遺物(68~77) 68~73は土師器小皿で、外面には指頭圧痕や粘土接合痕が残る。74・75は土師器皿。75は内面底部に葉状の痕跡が残る。76は陶器椀(山茶椀)で、高台底部に粉殻痕が残る。77は土師器小皿で、外面底部に墨書が見られる。斎宮Ⅲ-3期に相当する。

SK10262出土遺物(78・79) 78は土師器小皿で、器壁は薄い。79は土師器皿で口縁部はやや肥厚する。外面体部に粘土接合痕が残る。斎宮Ⅲ-3期のもの。

SK7662出土遺物(80・81) 80は土師器小皿。斎宮Ⅲ-3期以降のものか。81は土師器杯で、口縁部は外反する。混入と考えられる。

SD10263出土遺物(82) 土師器小皿。底部は平底で、口縁部は肥厚する。斎宮Ⅲ-2~3期のもの。

SD10116出土遺物(83・84) 83は土師器小皿で、口縁部は肥厚する。84は白玉石で表面は研磨されている。基石の可能性も考えられる。

包含層(85~89) 85・86は墨書土器で、土師器小皿。85は内外面に絵画が描かれている。人面であろうか。86は外面底部に絵画もしくは記号が描かれる。87・88は白玉石。表面は研磨され、基石の可能性も考えられる。89は土玉で、一部に工具状の痕跡が残る。これらは平安時代後期の溝の上部より出土しており、斎宮Ⅲ-3期頃のものと考えられる。

5 まとめ

(1) 平安時代後期の溝について

平安時代後期になると、鍛冶山西区画で内院の機能が失われるのに対し、牛業東区画には内院の機能が集約され、区画内を細分する溝が出現する。今回確認したSD10116~10119は、区画の北東部を区切る溝と考えられる。これらは、斎宮Ⅲ-2期以降に埋没が始まり、鎌倉時代初期には完全に埋没する。埋土には多量の土器が廃棄されており、調査面積は37㎡でありながら、整理箱で194箱分の遺物が出土した。東隣の第163次調査でも24㎡の調査範囲ながら170箱の遺物が出土している。遺物のほとんどはこれら区画を細分する溝から出土し、その大半は土

部器皿・小皿である。また、墨書土器や陶枕、サイコロ・碁石と思われる遺物なども多数含まれ、これらは平安時代後期から末期にかけて牛婁東区画内で儀式や饗宴など活発な活動を示すものであろう。

(2) 平仮名「いろは歌」墨書土器(46)について

①文字の解釈

墨書は、内面に「ぬるをわか」、外面に「つねなら」の9文字が判読でき¹¹、「いろは歌」の一部にあたる。いずれも平仮名で、続き文字ではなく、一文字づつ区切った散らし文字で書かれている。

内面の「ぬ・る」は繊細な筆遣いがわかる良好な文字。「を(遠)」は、「き(支)」や「よ(母)」の可能性もある。「わ・か」は、上記の3文字に比べてやや細い。特に「か」は、土器の屈曲面に書いているためか、文字が小さく、丁寧さも見られない。このほか、「ぬ・る」の右側にも数文字の墨痕が確認できるが、判読はできない。「ぬ」の右上の墨痕は、文字としては小さいが「り」となる可能性もある。

外面について、「つ」は上方からの続きの筆跡が見られるが、下半部のみで「つ」と判断した。「ね」は「年」の崩し字がやや左に傾いたものか。「な」も大部分が欠損しているため、文字の全容は不明。末尾の返しは確認できなかったが、「な」の可能性が高いと考えた。「ら」も上半部の墨痕が薄いですが、下半部の筆跡から「ら」と判断した。外面の文字については、内面のような筆跡の丁寧さは無く、難解な文字となっており、内面と外面に別人の筆跡である可能性も考えられる。また、「つ」が前文字からの続きとなっていること、「な」の末尾の返しが確認できなかったことなど、文字の解釈についても疑問点が残る。「つねなら」ではなく、「ぬのおく」もしくは「うみのお」である可能性も考えられ、文字の解釈については、今後も慎重な検討が必要である。

②土器の時期

この土器は、平安時代後期の溝のうち、S D 10117の上層から出土した。溝は斎宮Ⅲ-2期から埋没が始まったとみられるが、出土遺物の大半は斎宮Ⅲ-3期の土器で占められている。

斎宮Ⅲ期後半については、これまでも編年における問題点が指摘されてきた。竹内英昭氏は、第143次調査で確認した平安時代後期～鎌倉時代の遺構資

料をもとに、斎宮Ⅲ-3期の標式資料を補強し、中世的な土器様相を示す一群をもって斎宮Ⅳ-1期を、斎宮Ⅲ-3期とⅣ-1期の間に連続性が薄いことから斎宮Ⅲ-4期の設定を提唱している¹²。

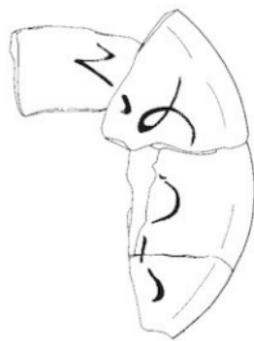
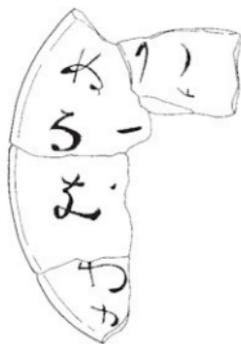
斎宮歴史博物館では斎宮Ⅲ～Ⅳ期の土器編年の再検討を進めており、その成果は別途報告する予定である。これらの資料と照らし合わせても、今回の墨書土器は、口径9.1cmとやや大型の小皿で、底部が丸みを帯びていないこと、共存する土器器皿も大型化が進み底部から口縁部にかけて丸みを帯びる形状であること、12世紀後半には減少するロクロ土器器がまだ含まれていることなど、従来の編年観でも斎宮Ⅲ-3期の古い様相を示しており、S D 10117の土器群は11世紀後期後葉から12世紀前半に相当するものと考えられる。

③平仮名「いろは歌」墨書出土の意義

斎宮跡からは、これまでに約70点の平仮名墨書土器が出土しており、そのほとんどは内院に推定されている牛婁東区画や鍛冶山西区画から出土している¹³。今回出土した土器は、繊細な筆跡や、この内院想定地から出土していることから、斎王に仕える女官が書いたものと考えられる。土器の両面に書かれていることや、平仮名が一文字づつ書かれていることから、文字の習書として書かれた可能性が高い。

現存する最古の「いろは歌」は、承暦3(1079)年に書かれた「金光明最勝王経音義」に見られ、巻初は万葉仮名で、巻末は片仮名で書かれている。今回出土したものは、11世紀後期後葉から12世紀前半のものであり、「いろは歌」が成立してから比較的早い段階で斎宮に伝わっていた可能性が考えられる。

斎王周辺には、命婦や乳母など都から付き従った高位の女性が存在している。永保三年(1083)には梶子内親王歌合が開催されていることや、「西本願寺本三十六人家集」の筆者の一人である藤原道子や歌人でもある甲斐が斎王に随行していることから、斎王周辺には高い文化的空間が形成されていたことが窺える。こうしたことから、斎宮には都の文化がいち早く伝わっていた可能性があり、「いろは歌」も同様に伝えられたものであろう。今回の「いろは歌」を書いた人物は、土器に習書していることから、下級の女孺など比較的身分の低い女官が考えられ、



第V-4図 第171次調査 平仮名「いろは歌」墨書土器赤外線写真・遺物実測図(1:1)

高い教養を持った女官から「いろは歌」を通じて、文字などの教養を学んでいた可能性が考えられる。

平仮名「いろは歌」墨書土器の出土は、「いろは歌」や平仮名の普及過程を考える上で重要であるとともに、斎宮の文化的先進性を示すものであろう。

【注】

(1) 文字の判読にあたっては、所京子氏(岐阜聖徳学園大学名誉教授)・藤本孝一氏(龍谷大学客員教授)の指導を受けた。

(2) 竹内美昭「第143次調査」『史跡斎宮跡 発掘調査概報』斎宮歴史博物館、2006

(3) 小瀧学「斎宮跡出土平仮名墨書土器の現状と課題」『斎宮歴史博物館 研究紀要十四』斎宮歴史博物館、2005

写真図版V-1 第171次調査 遺構(1)



調査区全景(南から)



調査区全景(西から)



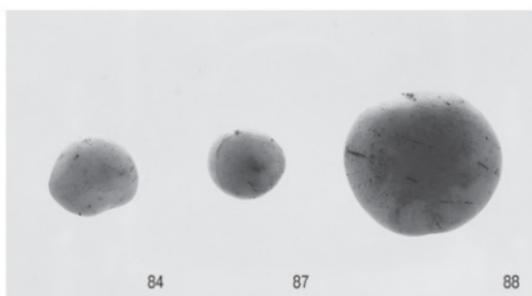
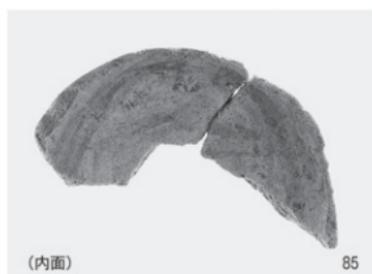
SD 10117 ~ 10119 (東から)

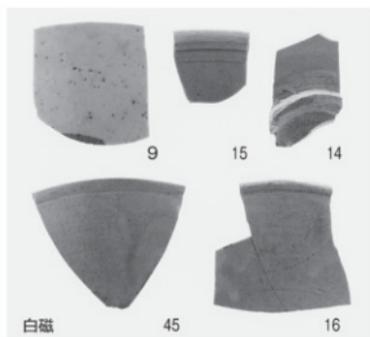
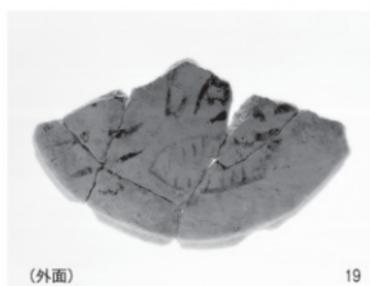
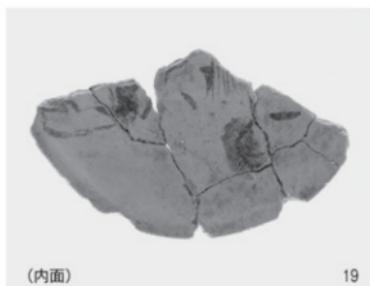
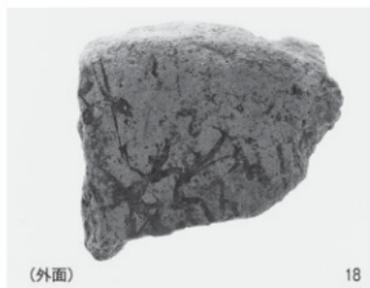
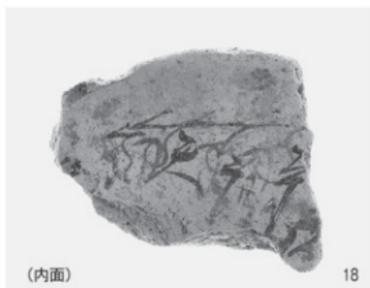


SD 10117 ~ 10119 土層断面 (東から)

写真図版V-3 第171次調査 遺物(1)







報 告 書 抄 録

ふりがな	しせきさいくうあと へいせいじゅうにねんどはくつちょうさがいりょう							
書名	史跡斎宮跡 平成22年度発掘調査概報							
副書名								
巻次								
シリーズ名								
シリーズ番号								
編著者名	新名 強							
編集機関	斎宮歴史博物館							
所在地	〒515-0325 三重県多気郡明和町竹川503 TEL0596-52-7027							
発行年月日	西暦 2012年 3月30日							
ふりがな	ふりがな	コ ー ド		北 緯	東 経	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号	° / ′	° / ′			
斎宮跡	多気郡 明和町 斎宮・竹川	24442	210	34° 31′ 55″ ～ 34° 32′ 30″	136° 36′ 16″ ～ 136° 37′ 37″	20100517 ～ 20101118	537㎡ (第167次) 239㎡ (第168次) 71㎡ (第169次) 37㎡ (第171次)	学術調査
所収遺跡名	種 別	主 な 時 代		主 な 遺 構		主 な 遺 物		特記事項
斎宮跡第167次	官 衙	奈良 平安 鎌倉以降		掘立柱建物 井戸・土坑 溝		土師器 須恵器 灰軸陶器 緑軸陶器 輸入陶磁 石製紡錘車		柳原区西北東部
斎宮跡第168次	官 衙	奈良 平安 鎌倉以降		掘立柱建物 土坑・溝 区画道路		土師器 須恵器 灰軸陶器 緑軸陶器 墨書土器		下園東区画南 辺部 区画道路
斎宮跡第169次	官 衙	近世以降		溝		土師器		区画道路部分
斎宮跡第171次	官 衙	平安		土坑・溝		土師器 須恵器 灰軸陶器 輸入陶磁 墨書土器 白玉石		牛葉東区画北 東隅
要 約	<p>第167次調査では、柳原区画の北東部で平安時代を中心とする掘立柱建物を多数確認した。第168次調査では、方格地割の東西区画道路北側溝および下園東区画南辺の建物群を確認した。第169次調査では御館区画南西端で調査を行ったが、後世の削平のために、遺構を確認することはできなかった。第171次調査では牛葉東区画内を細分する平安時代後期以降の溝を確認し、「いろは歌」や人面などの墨書土器を含む大量の土器が出土した。</p>							

史跡 齋宮跡

平成 22 年度

発掘調査概報

2012 年 3 月 30 日

編集・発行 齋宮歴史博物館

印刷 株式会社 アイブレーション
